－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	家族療法・ブリーフセラピー特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5300
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーについて学び、実践する。また、集団や地域社会における心理支援について学ぶ。
授業の概要	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーにおける問題解決や解決構築の理論と技法について学ぶことを目的とする。1970年代より発展してきたブリーフセラピーについて概観し、ブリーフセラピーにおける問題の捉え方、またはその解決、解決の構築などの考え方／哲学について学ぶ。また、事例やロールプレイを通して、技法の実際について体験的に学ぶ。さらに集団や地域社会への支援に関する理論と実践の方法についても学ぶ。
到達目標	１．家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 ２．地域社会や集団組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について説明できる。【知識・理解】 ３．心理に関する相談、助言、指導などへの上記１および２の応用。【態度・志向性】
授業計画	第1回　家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (1)システムの構造と機能 第2回　家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (2)変化の理論 第3回　家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際 (3)介入の実際 第4回　ブリーフセラピーの理論と実際 (1)理論的枠組み 第5回　ブリーフセラピーの理論と実際 (2)変化の理論 第6回　ブリーフセラピーの理論と実際 (3)介入の実際 第7回　社会構成主義と解決構築 (1)理論と姿勢 第8回　社会構成主義と解決構築 (2)質問と会話の実際 第9回　社会構成主義と解決構築 (3)演習を中心に 第10回　治療的会話について (1)治療関係 第11回　治療的会話について (2)会話の展開 第12回　治療的会話について (3)演習を中心に 第13回　解決構築における技法論 (1)質問技法の実際 第14回　集団や組織に対する心理支援について 第15回　地域社会における心理支援について
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について家族療法関連の専門書にて予習（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：2時間）
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ 講義：該当分野の基礎的な理論について講義を行い、ディスカッションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。 ロールプレイに関しては適宜、介入し、理論に基づいたカウンセリングの実践に向けて指導を行う。 文献研究：当該領域に関する文献を検索し、与えられたテーマに沿ってレビューを行う。 グループディスカッション：与えられたテーマに沿ってディスカッションを行う。 ロールプレイ：理論に即して実践を行う。
評価基準と評価方法	学びの姿勢や態度、面接技術の習熟度と理解度、発表や発言の内容などにより総合的に評価する。具体的には、ロールプレイの参加姿勢50%、ディスカッションの内容50%。 ロールプレイの参加度：積極的に参加し、理論的な理解が実践に反映されているかどうかについての確認と評価。到達目標の１、２、３に関する到達度の確認。 ディスカッションの内容：ディスカッションにおける発言の内容において理論的な理解の適切性や集団や地域社会における心理支援のついての理解について確認・評価を行う。到達目標の１、２に関する到達度の確認。
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。システムズアプローチ、ソリューション・フォーカスト・アプローチやナラティヴ・セラピーの専門書を読み、会話のスキルについて自己学習しておくこと。
教科書	特になし
参考書	遊佐安一郎著「家族療法入門ーシステムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉「今日から始まるナラティヴ・セラピー」日本評論社 坂本真佐哉、和田憲明、東豊著「心理療法テクニックのすすめ」金子書房 坂本真佐哉編「逆転の家族面接」日本評論社 坂本真佐哉・黒沢幸子編「不登校・ひきこもりに効くブリーフセラピー」日本評論社

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5270
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学（教育分野）
授業の概要	学校で生じる諸課題についての臨床心理学的理解を深め、チームとしての学校におけるスクールカウンセラーの役割について学びます。 ワークやグループディスカッションを通して、自らの考えや理解を言語化し、その内容を共有します。
到達目標	①教育分野に関わる公認心理師等の実践について理解し、説明することができる。【知識・理解】 ②授業を通して得た知識や理解をみずからの研究や臨床活動に活かし、それについて他者に伝えることができる。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　オリエンテーション、授業の進め方 第 2回　集団と個人(1)：原子価査定テスト 第 3回　集団と個人(2)：集団適応と原子価構造 第 4回　チームとしての学校(1)：グループ心性 第 5回　チームとしての学校(2)：作動グループと基底的想定グループ 第 6回　スクールカウンセラーという仕事(1) 第 7回　スクールカウンセラーという仕事(2) 第 8回　いじめ(1)：集団現象としてのいじめと理論的モデル 第 9回　いじめ(2)：いじめ対応の可能性 第10回　不登校(1)：集団現象としての不登校 第11回　不登校(2)：不登校問題の明確化、不登校の終わり 第12回　教育という関係(1)：コンテイナー／コンテインドからみた思考の発達 第13回　教育という関係(2)：コンテイナー／コンテインドからみた特別支援 第14回　発表準備 第15回　発表と討議
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テーマに関連する書籍や論文の購読。＜２時間＞ 授業後学習：レポート作成。＜２時間＞
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション）
評価基準と評価方法	平常点（50%）、発表と提出物（50%）により評価をおこなう。 平常点（討議、その他授業への参加・貢献）。到達目標①②③に関する到達度の確認。 発表と提出物。到達目標①③に関する到達度の確認。
履修上の注意	主体的に考え、表現する努力をしてください。
教科書	なし。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	グリーフケア特論						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5250
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	悲嘆やトラウマについての基礎知識と具体的な支援の方法を学ぶ。
授業の概要	さまざまな原因で大切な人を失った者が受ける心理的影響は多岐にわたる。本講義では、悲嘆（grief）とは何かについて学んだ後、複雑性悲嘆や他の精神疾患との差異について理解を深める。また、実際の事例やDVD視聴などを通して、グリーフケアやトラウマケアに関する具体的な支援の方法を学ぶ。
到達目標	(1) 悲嘆やトラウマについての知識を整理することができる。【知識・理解】【態度・志向性】 (2) グリーフケアやトラウマケアについての具体的な支援の方法を学び、実践できるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　悲嘆の基本的理解と症候学的位置づけ 第3回　トラウマがもたらす心理的影響 第4回　支援・介入の実際：コミュニティへの介入（災害後の支援） 第5回　支援・介入の実際：コミュニティへの介入（学校における事件・事故） 第6回　支援・介入の実際：コミュニティへの介入（緩和ケア病棟における遺族ケア） 第7回　支援・介入の実際：個人への介入（悲嘆アセスメント） 第8回　支援・介入の実際：個人への介入（心理教育） 第9回　支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第10回　支援・介入の実際：個人への介入（悲嘆カウンセリング） 第11回　支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第12回　支援・介入の実際：個人への介入（自死遺族のケア） 第13回　支援・介入の実際：個人への介入（複雑性悲嘆の治療） 第14回　支援・介入の実際：個人への介入（トラウマの治療） 第15回　支援者のストレス
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指定された専門書や論文をよく読み、資料を作成する。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。＜2時間＞
授業方法	講義と演習、ロールプレイ
評価基準と評価方法	授業への参加度（40%）と発表（60%）により総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。
履修上の注意	・発表者はレジュメを人数分用意し、当日配布すること。 ・発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『心的トラウマの理解とケア 第2版』金吉晴（編）じほう　ISBN978-4-8407-3543-8 『悲嘆カウンセリング』J.W.ウォーデン（著）山本力（監訳）誠信書房　ISBN978-4-414-41445-5 『「悲しみ」の後遺症をケアする―グリーフケア・トラウマケア入門』角川学芸出版　ISBN978-4-04-651613-8

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	千葉　征慶					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5290
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	産業・労働分野に関するさまざまな心理的支援の理解
授業の概要	産業・労働分野における今日的なトピックに関する事例について議論し、支援の内容や方法について実践的な学習を行う。
到達目標	①産業・労働分野に関わる心理職の実践について説明できる。【知識・理解】 ②産業・労働現場における心理社会的課題および必要な支援について説明できる。【知識・理解】 ③授業から得た理解を、自分自身や日常生活上の諸問題に応用したり、他者と共有できる。【汎用的技能】
授業計画	第1回　産業における臨床心理学 第2回　企業従業員のメンタルヘルスの現状 第3回　ストレス対策の意義と重要性 第4回　産業心理臨床に必要な法的知識 第5回　職場ストレスのモデル 第6回　ストレスによる健康影響 第7回　ストレスチェック制度とストレス調査票の実施方法 第8回　実習①ストレス調査による面談とセルフケア 第9回　職場復帰の進め方と問題点 第10回　職場内、職場外資源の利用の仕方と連携 第11回　メンタルヘルス研修の進め方 第12回　実習②メンタルヘルス研修 第13回　調査票による組織アセスメントの方法、コンサルテーションの方法 第14回　実習③調査票に基づくコンサルテーションの方法についてロールプレイ 第15回　その他の職場のメンタルヘルスに関するトピックス
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：manabaにて公開される各授業のコンテンツを予習し、事前に指定するキーワードについて、指定された参考とょ等で下調べする(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、理解度確認テストで理解度を確かめる。(学習時間：2時間
授業方法	プリントを配布し、講義とグループワーク等による体験学習。
評価基準と評価方法	敢えて目安を数式で示すならば、 成績(100)＝レポート(40)+小テスト(30)＋実習でのパフォーマンス(10)＋授業への積極的参加(20) いずれも、到達目標①から③に関する到達度の確認
履修上の注意	松蔭manabaシステムを活用するため、スマホ設定し、必ず持参すること。 レポートの提出、小テストも、manabaシステムを利用して行う。
教科書	資料を配付する。
参考書	山下高治他「働く人たちのメンタルヘルス対策と実務」ナカニシヤ出版 金井篤子編「産業心理臨床実践」ナカニシヤ出版 大阪商工会議所編「メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅰ種公式テキスト」中央経済社

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論／社会心理学特論I						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5220
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	社会心理学の知見について、現代的な研究トピックとアプローチを含めて、学習する。
授業の概要	大学院生向けに編集された「現代社会心理学特論」の教科書の内容を、各自が予習し、担当者がレジメを作成して発表する。それをもとに議論する。
到達目標	社会心理学の知見を習得し、かつ、最近の研究の動向を知ることができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　オリエンテーション，指定討論者割り当て　教科書第１章　社会心理学とは何か 第2回　教科書第２章　社会的影響 第3回　教科書第３章　社会的認知アプローチ 第4回　教科書第４章　対人認知 第5回　教科書第５章　ステレオタイプと対人行動 第6回　教科書第６章　態度と行動 第7回　教科書第７章　社会的推論 第8回　教科書第８章　自己 第9回　教科書第９章　無意識と自動性 第10回　教科書第10章　感情と認知 第11回　教科書第11章　行動経済学と社会心理学 第12回　教科書第12章　脳神経科学と社会心理学 第13回　教科書第13章　進化心理学と社会心理学 第14回　教科書第14章　文化の影響 第15回　教科書第15章　現代社会心理学の潮流
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。(学習時間：２時間)
授業方法	各回の授業内容について発表者がレジュメを作成する。授業はその発表内容に基づいて議論する。最後に補足説明などをする。
評価基準と評価方法	平常点（発表，質疑応答など授業への積極的参加）100%
履修上の注意	教科書を必ず予習すること。
教科書	「改訂版　現代社会心理学特論」　森津太子　著　　放送大学教育振興会　ISBN　978-4-595-14042-6
参考書	

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論II						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5210
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	最新の社会心理学の文献研究
授業の概要	ここ数年に発表された，社会心理学の雑誌論文（「社会心理学研究」，「心理学研究」）あるいは学会発表論文を読み，最新の社会心理学研究の動向を知る。
到達目標	修士論文のテーマを決定するための，あるいは修士論文に引用するための資料，知見を得ることができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　オリエンテーション，発表割り当て 第2回　個人発表と討論（1）　社会心理学研究　2018年,2019年の論文 第3回　個人発表と討論（2）　社会心理学研究　2017年の論文 第4回　個人発表と討論（3）　社会心理学研究　2016年の論文 第5回　個人発表と討論（4）　社会心理学研究　2015年の論文 第6回　個人発表と討論（5）　社会心理学研究　2014年の論文 第7回　個人発表と討論（6）　社会心理学研究　2013年の論文 第8回　個人発表と討論（7）　心理学研究　2018年,2019年の論文 第9回　個人発表と討論（8）　心理学研究　2017年の論文 第10回　個人発表と討論（9）　心理学研究　2016年の論文 第11回　個人発表と討論（10）　心理学研究　2015年の論文 第12回　個人発表と討論（11）　心理学研究　2014年の論文 第13回　個人発表と討論（12）　心理学研究　2013年の論文 第14回　個人発表と討論（13）　心理学研究　2012年の論文 第15回　修士論文についての討論
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内容と関連し、かつ自分が関心を持つ社会心理学の領域について，様々な著書を読んで，理解を深めるようにする。（学習時間　４時間）
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）１００％
履修上の注意	発表の際には，ゼミ人数分のレジュメを用意すること
教科書	なし
参考書	

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	淺田　慎太郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5280
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践を学びます。 司法・犯罪分野の基礎を理解し、犯罪心理学、司法心理学、臨床心理学、精神分析的観点からの非行・犯罪理解を深めます。
授業の概要	司法・犯罪領域における理論と支援を学ぶことを目的とします。 とりわけ犯罪を行った加害者の臨床心理学的問題や介入、支援の枠組みについて学びます。
到達目標	①司法・犯罪分野に関わる臨床心理士および公認心理師の実践を理解することができる。【知識・理解】 ②非行・犯罪を様々な心理学的観点から理解することができる。【知識・理解】 ③非行者・犯罪者の支援について理解し、実践への準備を整える。【知識・理解】
授業計画	集中講義であり、開講日は以下を予定しています。 2021年8月 10日（火）　9:00-16:20（1限-4限）　4回分 同年8月19日（木）　9:00-16:20（1限-4限）　4回分 同年8月24日（火）　9:00-16:20（1限-4限）　4回分 同年8月26日（木）　10:40-16:20（2限-4限）　3回分 同年8月31日（火）　予備日 1日目：概要：司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（すべて講義） 　①概要 　②司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（2）：刑務所等矯正施設 　③司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（3）：少年施設 　④司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（4）：民間施設 2日目：非行・犯罪を心理学的に理解する 　⑤非行・犯罪のリスク要因について①（発表） 　⑥非行・犯罪の心理学について②（発表） 　⑦非行・犯罪の心理学について③（発表） 　⑧被害者の支援について（発表） 3日目：非行・犯罪への実践 　⑨実践（1）：実践の概要（講義） 　⑩実践（2）：実践について（発表） 　⑪実践（3）：実践について（発表） 　⑫実践（4）：予後（講義） 4日目：論文を通したディスカッション 　⑬事例・論文精読（1）：精神分析的に犯罪を理解する 　⑭事例・論文精読（2）：精神分析的に犯罪にアプローチする 　⑮まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	準備学習：司法・犯罪心理学に関する内容について履修者で分担し、資料を作って発表していただきます。 （所要時間：2~4時間程度）
授業方法	各回のテーマについて講義、ディスカッションを行います。 準備学習からの発表もしてもらいますので、積極的なディスカッションに参加してもらうことを期待します。
評価基準と評価方法	発表内容や講義内でのディスカッションなどから「認定」を行います。 発表内容：50%　到達目標①から③に関する到達度の確認 講義内でのディスカッション：50%　到達目標①から③に関する到達度の確認
履修上の注意	4回の欠席があった場合、単位の認定を行いません。
教科書	購入しなければならない教科書はありません。 事前学習に際しては、図書館の本や論文を使用してください。

参考書	犯罪統計について：『犯罪白書』『警察白書』 犯罪心理学について：『犯罪心理学事典』『犯罪行動の心理学［原著第6版］』『犯罪心理学―行動科学のアプローチ』 司法臨床について：『司法心理療法―犯罪と非行への心理学的アプローチ』『児童虐待・解離・犯罪:暴力犯罪への精神分析的アプローチ』 このあたりがおすすめです。興味があれば読んでみてください。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学研究法特論						
担当教員	前期：久津木　後期：土肥					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5080
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	心理学の実験および調査研究方法の習得
授業の概要	調査・実験による心理学の実証的研究方法について、幅広く学ぶ。 前半では、実験・調査データに対する統計解析の基礎と使用法を、後半では、主に調査データに対する多変量解析を学び、さらに、実験研究の論文を読み理解する。 講義と演習の双方により、実践的な統計運用能力を身に付ける。 授業で学んだ統計解析を用いた文献を読み、受講生が発表する。
到達目標	心理学の実証的検討を行った論文を理解できる。【知識・理解】 自らの調査・実験データを適切に統計処理、解析でき、結果を論文形式にまとめ、考察することができる。【汎用性技能】
授業計画	第1回 統計ソフト・プログラムについて 第2回 単純集計、クロス集計 第3回 記述統計 第4回 変数の加工 第5回 独立性の検定 第6回 独立したサンプルのｔ検定 第7回 対応のあるサンプルのｔ検定 第8回 ｔ検定を用いた論文の発表 第9回 1要因被験者間・内計画の分散分析 第10回 ２要因（両方とも対応なし）の分散分析 第11回 ２要因（対応ありと対応なし）の分散分析 第12回 ２要因（対応ありと対応あり）の分散分析 第13回 分散分析を用いた論文の発表 第14回 テキストマイニングの紹介 第15回 テキストマイニングをやってみる 第16回　調査の概要、インターネット調査票の作成 第17回　公開データの二次分析 第18回　合成変数の作成、ファイルの分割、ケースの選択、複数回答 第19回　尺度作成のための探索的因子分析、α係数、確認的因子分析 第20回　尺度作成の論文の発表 第21回　多変量解析の概要、重回帰分析と数量化Ｉ類 第22回　重回帰分析を用いた論文の発表 第23回　判別分析と数量化Ⅱ類 第24回　判別分析を用いた論文の発表 第25回　論文の解説１）　配偶者選択に関する実験研究 第26回　論文の解説２）　男性への日傘促進に関する実験研究 第27回　論文の解説３）　閾下プライミングの実験研究 第28回　論文の解説４）　割り勘問題の実験研究 第29回　心理統計のまとめテスト　１） 第30回　心理統計のまとめテスト　２）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	指示された論文を読み、発表に備える。 授業前準備学習：各回授業で扱う該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容のレジュメを読み返し、毎回の授業内容を復習し、理解を確実なものにしておく。（学習時間：２時間）
授業方法	講義、発表、演習を組み合わせた授業
評価基準と評価方法	文献の発表50%、演習時の課題遂行度などの平常点50%
履修上の注意	遅刻・欠席しないように心がける。 授業レジュメは、前回までの分も持参する。

教科書	使用しない
参考書	授業中に指示する

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6030
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	修士論文の作成
授業の概要	自身が決定したテーマについて臨床心理学的な視点から検討し、修士論文としてまとめる。
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【知識・理解】 (2) 必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 (3) 収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (4) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　研究計画の検討(1)：研究計画書の作成 第3回　研究計画の検討(2)：研究計画書の見直し 第4回　研究計画の検討(3)：研究計画書の完成 第5回　データ収集の準備(1)：質問紙の作成 第6回　データ収集の準備(2)：質問紙の見直し 第7回　データ収集の準備(3)：調査手続きの確認 第8回　データ収集(1)：質問紙の配布 第9回　データ収集(2)：調査の進捗状況確認 第10回　データ収集(3)：質問紙の回収 第11回　データ分析(1)：データの入力 第12回　データ分析(2)：データの加工 第13回　データ分析(3)：統計処理（記述統計） 第14回　データ分析(4)：統計処理（推測統計） 第15回　データ分析(5)：結果の読み取り 第16回　データ分析(6)：結果のまとめ 第17回　修士論文の作成(1)：問題 第18回　修士論文の作成(2)：目的 第19回　修士論文の作成(3)：方法 第20回　修士論文の作成(4)：図表 第21回　修士論文の作成(5)：結果 第22回　修士論文の作成(6)：考察 第23回　修士論文の作成(7)：文献 第24回　修士論文の作成(8)：要約 第25回　論文の校正(1)：問題～結果の修正 第26回　論文の校正(2)：考察～要約の修正 第27回　論文の校正(3)：全体の見直し 第28回　発表準備(1)：発表資料の作成 第29回　発表準備(2)：発表資料の修正 第30回　発表準備(3)：発表資料の完成
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、資料にまとめる。＜2時間＞ 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備。＜2時間＞
授業方法	演習形式による授業と個別指導
評価基準と評価方法	・研究に取り組む姿勢(20%)：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 ・修士論文(50%)：到達目標(3)に関する到達度の確認。 ・発表機会（研究報告会、ゼミ内発表等）における発表内容（技術、態度、質疑応答等）(30%)：到達目標(4)に関する到達度の確認。
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。

教科書	なし
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6030
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	修士論文を作成する。
授業の概要	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の理論や技法について学び実践するとととともに、この領域に関するテーマの研究を行い、修士論文としてまとめる。
到達目標	（１）研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【研究倫理】 （２）必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 （３）収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】【研究倫理】 （４）研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【研究倫理】
授業計画	第1回　研究計画の検討①　テーマ（問題）の確認 第2回　研究計画の検討②　目的の検討 第3回　研究計画の検討③　仮説の設定 第4回　研究計画の検討④　方法・手続きの立案 第5回　研究計画の検討⑤　方法・手続きの決定 第6回　研究の実施 第7回　研究データの整理 第8回　研究データの集計 第9回　研究データの分析 第10回　研究データの分析まとめ 第11回　中間発表準備①　内容の検討 第12回　中間発表準備②　資料の作成 第13回　中間発表予行①　内容の再検討 第14回　中間発表準備③　資料の修正 第15回　中間発表予行②　内容の確認 第16回　中間発表振り返り 第17回　修士論文の作成①　問題 第18回　修士論文の作成②　目的 第19回　修士論文の作成③　方法・手続き 第20回　修士論文の作成④　図表 第21回　修士論文の作成⑤　結果 第22回　修士論文の作成⑥　考察 第23回　修士論文の作成⑦　文献 第24回　修士論文の作成⑧　要約 第25回　論文の校正①　問題、目的、方法・手続き、図表、結果の修正 第26回　論文の校正②　考察、文献、要約の修正 第27回　発表準備①　資料の作成 第28回　発表予行①　内容の再検討 第29回　発表準備②　資料の修正 第30回　発表予行②　内容の確認
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：90分） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：90分）
授業方法	ゼミ形式を主とするが、適宜個別指導を併用する。
評価基準と評価方法	・研究に取り組む姿勢20%　到達目標（１）（２）に関する達成度の確認 ・修士論文50%　到達目標（３）に関する達成度の確認 ・発表機会（研究報告会、ゼミ内発表等）における発表内容（技術、態度、質疑応答等）30%　到達目標（４）に関する達成度の確認
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。
教科書	なし

参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6030
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜6	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	修士論文の作成と研究発表
授業の概要	「臨床心理学特別研究Ａ」「臨床心理学特別研究Ｂ」の内容を発展させ、修士論文を完成させます。 研究内容を発表し、共有します。
到達目標	①研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 ②必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 ③収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】 ④研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回　オリエンテーション　これまでのふり返り、授業の進め方 第 2回　研究結果の整理(1) 第 3回　研究結果の整理(2) 第 4回　研究結果の整理(3) 第 5回　研究結果の整理(4) 第 6回　成果と課題の整理(1) 第 7回　成果と課題の整理(2) 第 8回　成果と課題の整理(3) 第 9回　成果と課題の整理(4) 第10回　論文作成(1) 第11回　論文作成(2) 第12回　論文作成(3) 第13回　論文作成(4) 第14回　中間発表(1)　※学部ゼミとの合同授業 第15回　中間発表(2)　※学部ゼミとの合同授業 第16回　論文作成(5) 第17回　論文作成(6) 第18回　論文作成(7) 第19回　論文作成(8) 第20回　論文修正(1) 第21回　論文修正(2) 第22回　論文修正(3) 第23回　論文修正(4) 第24回　発表資料作成(1) 第25回　発表資料作成(2) 第26回　発表資料作成(3) 第27回　発表資料作成(4) 第28回　発表資料作成(5) 第29回　研究発表(1)　※学部ゼミとの合同授業 第30回　研究発表(2)　※学部ゼミとの合同授業
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、討議用資料作成、修士論文作成、発表資料作成。＜２時間＞ 授業後学習：提出物の加筆修正。＜２時間＞
授業方法	講義、演習（ディスカッション、プレゼンテーション）。
評価基準と評価方法	平常点（20%）、修士論文（50%）、発表内容（30%）により評価をおこなう。 ・平常点：研究に取り組む姿勢。到達目標①②に関する達成度の確認 ・修士論文：修士論文の内容。到達目標③に関する達成度の確認 ・発表内容：発表機会（研究報告会、ゼミ内発表等）における発表内容（技術、態度、質疑応答等）。到達目標④に関する達成度の確認
履修上の注意	「臨床心理学特別研究Ａ」「臨床心理学特別研究Ｂ」の内容をさらに発展させる授業です。 授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 学外見学・研修を行うことがあります。
教科書	なし。

参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6030
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜6	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	修士論文を作成する
授業の概要	自らの関心に基づいて臨床心理学的な観点から研究テーマを設定し、適切なデータ収集とその分析、考察を進め、修士論文を仕上げる。
到達目標	（１）研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【知識・理解】 （２）必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 （３）収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】 （４）研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】
授業計画	第１回　オリエンテーション：修士論文の作成過程について 第２回　構想発表(1)：発表 第３回　構想発表(2)：ディスカッション 第４回　目次の作成(1)：報告 第５回　目次の作成(2)：ディスカッション 第６回　問題と目的の検討(1)：報告 第７回　問題と目的の検討(2)：ディスカッション 第８回　先行研究レヴューⅠ(1)：報告 第９回　先行研究レヴューⅠ(2)：ディスカッション 第10回　先行研究レヴューⅡ(1)：報告 第11回　先行研究レヴューⅡ(2)：ディスカッション 第12回　先行研究レヴューⅢ(1)：報告 第13回　先行研究レヴューⅢ(2)：ディスカッション 第14回　中間発表(1)：発表 第15回　中間発表(2)：ディスカッション 第16回　方法の検討(1)：報告 第17回　方法の検討(2)：ディスカッション 第18回　データの収集と分析Ⅰ(1)：報告 第19回　データの収集と分析Ⅰ(2)：ディスカッション 第20回　データの収集と分析Ⅱ(1)：報告 第21回　データの収集と分析Ⅱ(2)：ディスカッション 第22回　考察の検討Ⅰ(1)：報告 第23回　考察の検討Ⅰ(2)：ディスカッション 第24回　考察の検討Ⅱ(1)：報告 第25回　考察の検討Ⅱ(2)：ディスカッション 第26回　考察の検討Ⅲ(1)：報告 第27回　考察の検討Ⅲ(2)：ディスカッション 第28回　公聴会資料の作成(1)：報告 第29回　公聴会資料の作成(2)：ディスカッション 第30回　まとめ：総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の報告用の資料を作成すること。＜２時間＞ 授業後にはディスカッションを踏まえて修士論文本体の執筆と加除修正を行うこと。＜２時間＞
授業方法	演習形式。報告と質疑応答、ディスカッションを行う。必要に応じて個別指導を併せて行う。
評価基準と評価方法	・研究に取り組む姿勢20%　到達目標（１）（２）に関する達成度の確認 ・修士論文50%　到達目標（３）に関する達成度の確認 ・発表機会（研究報告会、ゼミ内発表等）における発表内容（技術、態度、質疑応答等）30%　到達目標（４）に関する達成度の確認
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。
教科書	なし

参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6030
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	修士論文を作成する。
授業の概要	1年次に作成した研究計画書に沿ってデータの収集・分析を行い，結果の考察を進めて論文の作成を行う。同時に文献検討を行い，考察を深めていく。
到達目標	1.修士論文を完成させる。【汎用的技能】【研究倫理】 2.自分の研究の位置づけやオリジナリティ，今後の展望を要約して説明できる。【知識・理解】【研究倫理】 3.自分の研究をわかりやすく説明・発表することができる。【汎用的技能】【知識・理解】
授業計画	第1回：研究計画の立案（１）研究計画書の発表準備 第2回：研究計画の立案（２）研究計画書の発表 第3回：研究計画の立案（３）研究計画書の修正（主に「問題と目的」） 第4回：研究計画の立案（４）研究計画書の修正（主に「方法と倫理的配慮」） 第5回：研究の実施（１）予備調査の実施 第6回：研究の実施（２）研究計画の最終修正 第7回：研究の実施（３）調査協力者への依頼の開始 第8回：研究の実施（４）調査時期の確定 第9回：研究の実施（５）調査の準備 第10回：研究の実施（６）調査の手順の確認 第11回：データ収集の状況確認（１）調査の実施と集計 第12回：データ収集の状況確認（２）データの探索的分析 第13回：データ収集の状況確認（３）データの追加収集と集計 第14回：データ収集の状況確認（４）データの2度目の探索的分析 第15回：データ収集の状況確認（５）データの追加収集と集計 第16回：結果の分析（１）素データの整理 第17回：結果の分析（２）記述統計の実施 第18回：結果の分析（３）推測統計の実施 第19回：結果の分析（４）分析結果の検討 第20回：結果の分析（５）再分析と結果の整理 第21回：論文執筆：問題と目的（１）執筆作業 第22回：論文執筆：問題と目的（２）推敲作業 第23回：論文執筆：方法（１）執筆作業 第24回：論文執筆：方法（２）推敲作業 第25回：論文執筆：結果（１）執筆作業 第26回：論文執筆：結果（２）推敲作業 第27回：論文執筆：考察（１）執筆作業 第28回：論文執筆：考察（２）推敲作業 第29回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（１）パワーポイントの作成と発表 第30回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（２）発表資料の修正
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて，理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ，発表の振り返りを行うとともに，次に読み解く文献を収集する。（学習時間：2時間）
授業方法	演習（ゼミ）形式を主とするが，適宜個別の指導を併用する。各回，発表者が先行研究や書籍の要約，もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い，その内容について受講生と教員がディスカッションを行い，適宜補足の指導を行う。加えて，松蔭 manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加度・貢献度（20%）：到達目標1の達成度確認 修士論文の完成度（60%）：到達目標1の達成度確認 公聴会での発表内容・質疑応答（20%）：到達目標1，2，3の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし，欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに，個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え，改善点を提示する。
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。

教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6030
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	火曜6	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	家族療法やブリーフセラピーの理論と実際を学び、実践する。家族療法やブリーフセラピーの領域に関するテーマを選んで研究し、修士論文としてまとめる。
授業の概要	臨床心理学の総合的な学びの成果として修士論文を作成する。先行研究に関する文献研究を十分に行い、研究計画を練ったうえで、研究を実施する。結果を分析し、学術論文の形を整え、修士論文として完成させる。
到達目標	（１）研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【研究倫理】 （２）必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 （３）収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【研究倫理】 （４）研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【研究倫理】
授業計画	第1回　修士論文テーマの検討 第2回　修士論文テーマの絞り込み 第3回　先行研究の探索 第4回　先行研究についての討論 第5回　研究計画（１）問題の設定 第6回　研究計画（２）問題についての討論 第7回　研究計画（３）目的の検討 第8回　研究計画（４）仮設の設定 第9回　研究計画（５）方法・手続きの立案 第10回　研究計画（６）対象についての討論 第11回　研究計画（７）中間発表準備 第12回　研究計画（８）中間発表予行 第13回　研究計画（９）中間発表振り返り 第14回　研究計画（１０）最終討論 第15回　研究計画（１１）協力者募集について 第16回　研究の実施 第17回　研究実施の振り返り 第18回　データの整理 第19回　データの集計 第20回　データの分析 第21回　記述統計について 第22回　記述統計の視覚化 第23回　記述統計のまとめ 第24回　推測統計について 第25回　推測統計の視覚化 第26回　推測統計のまとめ 第27回　結果の整理 第28回　考察の整理 第29回　論文の添削 第30回　修士論文発表準備指導
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学の関連書にて予習および発表の準備（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：90分）
授業方法	1.研究計画に関する討論 2.調査もしくは実験の実施 3.論文指導
評価基準と評価方法	・研究に取り組む姿勢20%　到達目標（１）（２）に関する達成度の確認 ・修士論文50%　到達目標（３）に関する達成度の確認 ・発表機会（研究報告会、ゼミ内発表等）における発表内容（技術、態度、質疑応答等）30%　到達目標（４）に関する達成度の確認
履修上の注意	自発的、積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。
教科書	なし

参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6030
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0

授業のテーマ	修士論文研究
授業の概要	自身が決定したテーマについて研究し、修士論文としてまとめる。
到達目標	(1)研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【研究倫理】 (2)必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 (3)収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (4)研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【研究倫理】
授業計画	#01：研究テーマに関する文献レビュー（1）　報告者１の研究テーマについての報告と検討１ #02：研究テーマに関する文献レビュー（2）　報告者２の研究テーマについての報告と検討１ #03：研究テーマに関する文献レビュー（3）　報告者１の研究テーマについての報告と検討２ #04：研究テーマに関する文献レビュー（4）　報告者２の研究テーマについての報告と検討２ #05：研究テーマに関する文献レビュー（5）　報告者１の研究テーマについての報告と検討３ #06：研究テーマに関する文献レビュー（6）　報告者２の研究テーマについての報告と検討３ #07：研究テーマに関する文献レビュー（7）　各報告者による報告のまとめ #08：研究計画の検討（1）　報告者１による研究計画の報告と検討１ #09：研究計画の検討（2）　報告者２による研究計画の報告と検討１ #10：研究計画の検討（3）　報告者１による研究計画の報告と検討２ #11：研究計画の検討（4）　報告者２による研究計画の報告と検討２ #12：研究計画の検討（5）　報告者１による研究計画の報告と検討３ #13：研究計画の検討（6）　報告者２による研究計画の報告と検討３ #14：研究計画の検討（7）　報告者１による研究計画の報告と検討４ #15：研究計画の検討（8）　報告者２による研究計画の報告と検討４ #16：研究結果の整理と分析（1）　報告者１によるデータ分析の結果報告１ #17：研究結果の整理と分析（2）　報告者２によるデータ分析の結果報告１ #18：研究結果の整理と分析（3）　報告者１によるデータ分析の結果報告２ #19：研究結果の整理と分析（4）　報告者２によるデータ分析の結果報告２ #20：研究結果の整理と分析（5）　報告者１によるデータ分析の結果報告３ #21：研究結果の整理と分析（6）　報告者２によるデータ分析の結果報告３ #22：研究結果の整理と分析（7）　報告者１によるデータ分析の結果報告４ #23：研究結果の整理と分析（8）　報告者２によるデータ分析の結果報告４ #24：研究結果の整理と分析（9）　各報告者によるデータ分析のまとめ #25：修士論文の作成（1）　報告者１による修士論文報告１ #26：修士論文の作成（2）　報告者２による修士論文報告１ #27：修士論文の作成（3）　報告者１による修士論文報告２ #28：修士論文の作成（4）　報告者２による修士論文報告２ #29：公聴会資料の作成（1）　公聴会資料の作成 #30：公聴会資料の作成（2）　公聴会資料の完成
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：授業で検討する発表資料を作成しておく。 授業後学習（2時間以上）：授業内での討論を踏まえ、修士論文研究を進める（調査票の作成、データの分析、執 筆、等）。
授業方法	演習形式。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢（20%）【到達目標(1)(2)に関する達成度の確認】 修士論文（50%）【到達目標(3)に関する達成度の確認】 発表機会（研究報告会、ゼミ内発表等）における発表内容（技術、態度、質疑応答等）（30%）【到達目標(4)に関する達成度の確認】
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進度によって、授業計画の内容は変化する。

教科書	なし。
参考書	指導の過程において、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5310
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	心の健康教育の意義、理論的背景、実践のあり方について学ぶ
授業の概要	心の健康教育をテーマとして、まずその基本モデルを理論面と実践面から学ぶ。次いで、心の健康教育のための基礎知識として、ライフサイクルの各段階における心の健康について学ぶ。そして、日常生活の中で心の健康の増進のために心の健康教育が果たしうる役割について学ぶ。
到達目標	（１）心の健康教育に関する理論について説明できる。【知識・理解】 （２）心の健康教育に関する実践について説明できる。【知識・理解】 （３）心の健康教育の本質的な意義を理解して、適切な支援のあり方を構想できる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　心の健康教育の基本モデル⑴：心の健康教育とは 第２回　心の健康教育の基本モデル⑵：理論的背景 第３回　心の健康教育の基本モデル⑶：実践の諸技法 第４回　心の健康教育の基本モデル⑷：心の健康と不健康 第５回　ライフサイクルと心の健康教育⑴：乳幼児期の心の健康 第６回　ライフサイクルと心の健康教育⑵：児童期の心の健康 第７回　ライフサイクルと心の健康教育⑶：思春期・青年期の心の健康 第８回　ライフサイクルと心の健康教育⑷：成人期前半の心の健康 第９回　ライフサイクルと心の健康教育⑸：成人期後半の心の健康 第10回　ライフサイクルと心の健康教育⑹：高齢期の心の健康 第11回　日常生活と心の健康教育⑴：家庭生活と心の健康 第12回　日常生活と心の健康教育⑵：学校生活と心の健康 第13回　日常生活と心の健康教育⑶：職業生活と心の健康 第14回　日常生活と心の健康教育⑷：身体疾患と心の健康 第15回　日常生活と心の健康教育⑸：事故・災害・犯罪被害と心の健康
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には心の健康および心の健康教育をテーマとした文献を読み、割り当てられた発表資料を作成すること。＜ ２時間＞ 授業後には各回の内容に関連した文献を精読し、理解を深めること。＜２時間＞
授業方法	講義とともに、受講生各自に割り当てたテーマについての発表を求めグループディスカッションを行う。また適宜、シミュレーションに基づく演習を行う。
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末レポート70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、適宜提出を求めるリアクションペーパーの記述内容の的確さ等を評価する。到達目標（１）（２）（３）に関する到達度の確認。 期末レポート：授業を通じた心の健康教育についての理解度を評価する。到達目標（１）（２）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：リアクションペーパーの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。
履修上の注意	日常的に社会の動きや社会問題などに広く関心を持ち、そうした諸問題について心の健康教育という観点から考えてみ ることを心がけること。
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理実践実習I						
担当教員	大和田攝子・中村博文・木場律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5070
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	土曜2～4	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援の実践。
授業の概要	実習に参加するための基本的な知識、技能、倫理を身につける。 また、学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター）ならびに学外施設において、実習施設の実習指導者や担当教員の巡回による指導を受けながら、臨床心理学的な支援の実践について学ぶ。
到達目標	①心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能を身につける。【知識・理解】【汎用的技能】 （１）コミュニケーション、（２）心理検査、（３）心理面接、（４）地域支援 ②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成をすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。【態度・志向性】 ④他職種連携及び地域連携ができる。【態度・志向性】 ⑤公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解をもてる。【態度・志向性】
授業計画	・前期 #01：オリエンテーション－心理実践実習Ｉで何を学ぶか #02：実習生としての基本的な態度、心得 #03：他職種との連携とチームアプローチ #04：公認心理師としての職業倫理と法的義務 #05：実習施設の特徴：保健医療領域① #06：実習施設の特徴：保健医療領域② #07：実習施設の特徴：福祉領域① #08：実習施設の特徴：福祉領域② #09：実習施設の特徴：教育領域① #10：実習施設の特徴：教育領域② #11：実習施設の特徴：司法・犯罪領域① #12：実習施設の特徴：司法・犯罪領域② #13：実習施設の特徴：産業・労働領域① #14：実習施設の特徴：産業・労働領域② #15：実習施設の特徴：学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター） ※前期、および夏期休暇期間に、ボランティアや学外施設における見学実習を行う場合がある。 ・後期 #16：学内施設ならびに学外施設における実習（1） #17：学内施設ならびに学外施設における実習（2） #18：学内施設ならびに学外施設における実習（3） #19：学内施設ならびに学外施設における実習（4） #20：学内施設ならびに学外施設における実習（5） #21：学内施設ならびに学外施設における実習（6） #22：学内施設ならびに学外施設における実習（7） #23：学内施設ならびに学外施設における実習（8） #24：学内施設ならびに学外施設における実習（9） #25：学内施設ならびに学外施設における実習（10） #26：学内施設ならびに学外施設における実習（11） #27：学内施設ならびに学外施設における実習（12） #28：学内施設ならびに学外施設における実習（13） #29：学内施設ならびに学外施設における実習（14） #30：学内施設ならびに学外施設における実習（15）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：実習に先だって、支援の対象者や支援の内容に関して文献等で学習しておくこと。 また、毎回の実習の後には実習ノートを作成すること。
授業方法	講義、演習、実習。
評価基準と評価方法	実習への参加態度（実習指導者のコメント、巡回指導時や事前事後指導時の様子）（50%）：到達目標①③④⑤に関する到達度の確認。 各種報告書や作成資料（実習記録、実習報告書等）（50%）：到達目標①②⑤に関する到達度の確認。

履修上の注意	実習を行う施設はいずれも実際の業務を行っている施設であり、そこで実際の支援が行われていることに留意すること。 学外施設への交通費については、自己負担となる。
教科書	なし。
参考書	必要に応じて、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	若栄　徳彦					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5220
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	保健医療分野の精神医学領域に対する臨床心理学的理解
授業の概要	内容：臨床心理士・公認心理師として必要な精神医学的知識 意義：臨床現場で起きている心理社会的問題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近方法について学ぶと共に精神科臨床についての理解を深める。 目的：目的：臨床現場で起きている問題について、臨床心理学的接近法に基づき理解していくことを目的
到達目標	①臨床現場において生じる問題及びその背景について説明できる。（知識・理解） ②臨床現場における心理社会的課題びついて必要な支援を実施できる。（汎用的技能） ③授業から得た理解を、心理臨床に利用したり、臨床現場で他職と参加できる。（態度・志向性）
授業計画	1.総論 第１回　精神症状学 第２回　神経心理学 第３回　睡眠と脳波 第４回　心理療法 第５回　精神科的治療 2. 各論 第６回　症状性を含む器質性精神障害 第７回　てんかん 第８回　物質関連障害 第９回　内因性の精神障害 第10回　不安症 第11回　生理的及び身体的要因に関連した障害 第12回　パーソナリティ障害 第13回　小児期・青年期の精神障害１ 第14回　小児期・青年期の精神障害２ 第15回　精神医学と社会 （臨床心理士・公認心理師共に出題範囲が膨大なため、一部は臨床薬理学特論で講義する場合もある）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う当該箇所を予習し、参考書等によって下調べをする。ネットでもいいし、三村将ら『精神疾患とその治療』（医歯薬出版）あたりを参考にしてもよい。（２時間） ・授業内容につながる意見交換を友人とする（２時間） 授業後学習：不明点は『心理臨床大辞典』（培風館）あたりでわからせる（２時間）
授業方法	講義方式で行う。
評価基準と評価方法	レポート80%（締め切り厳守）：レポートのまとめ方等について評価する 到達目標①から③に関する到達度の確認 授業への取り組み20%：授業中の質問の答え方等で評価する 到達目標①から③に関する到達度の確認
履修上の注意	15分以上の遅刻は欠席扱いとするが、事情があれば事前に連絡すること。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業のたびに紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知行動療法特論						
担当教員	巣黒　慎太郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	認知行動療法の理論と実践
授業の概要	効果の実証されている心理療法のひとつである認知行動療法（Cognitive Behavior therapy; CBT）について、その基盤となる行動科学・認知病理学の諸理論や効果研究をふまえながら、「実証に基づく実践」の理念を学ぶ。またデモ面接映像や多くの臨床事例を題材としながら、認知行動論的に問題を把握し仮説形成する視点や、具体的な介入技法とそれらを用いる際の工夫・配慮を学ぶ。いくつかの技法は体験的に演習も行う。臨床場面でクライエントが行うのと同様に、受講生自身も自己観察記録やRelaxation練習、行動や認知の変容などのホームワークに取り組み、その成果や達成度を報告、検討する。さらに、対象領域の拡がりや技法の分化・統合などについても触れ、身体疾患への適用も紹介する。
到達目標	①認知行動論的な視点で事例を捉え評価・仮説を立てることができる。【知識・理解】 ②認知行動療法の代表的な援助介入技法の基礎を習得し、各自の実践に適用するイメージが持てる。【知識・理解】
授業計画	第1回　オリエンテーション、実証に基づく臨床心理学的援助の理念 第2回　学習理論と認知病理研究の臨床的展開 第3回　CBTセッションの特徴、治療援助関係性 第4回　アセスメントとケースフォーミュレーション、行動の理解：機能分析 第5回　行動的技法（1）症状・問題への対処、リラクゼーションスキル 第6回　行動的技法（2）不安障害ケースへの適用 第7回　行動的技法（3）コミュニケーションスキルの向上 第8回　認知的技法（1）認知モデル 第9回　認知的技法（2）考え方の癖に気づき、考えの幅を広げる 第10回　認知的技法（3）自動思考の検討、その他の認知的技法 第11回　認知的技法（4）スキーマへの介入、スキーマ療法 第12回　新世代の認知行動療法（1）対象領域の広がり 第13回　新世代の認知行動療法（2）対象特異的アプローチと統合的アプローチ 第14回　新世代の認知行動療法（3）マインドフルネス・スキルを中心に 第15回　質疑応答とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回のテーマについて自身の予備知識を確かめ、疑問や問題意識を明確にして授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：講義で学んだ内容に関連する文献を読み理解を深める。また、知識理解に留まらず、各回授業内で提示するホームワーク（技法習得のための自宅演習）を実施することで体験的理解に努める（学習時間：2時間）。
授業方法	講義：主要な技法については、臨床上での導入の仕方やスキル習得などを授業中に演習し体験的に学ぶ。
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加状況（発言、ディスカッション等）、平常課題）50% 到達目標①および②に関する到達度の確認 定期レポート　50%　到達目標①および②に関する到達度の確認
履修上の注意	全15回中10回（2/3）以上の出席を満たさないと最終評価資格を失う。
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。
参考書	『認知行動療法事典』日本認知・行動療法学会編　ISBN978-4-621-30382-5 『行動変容法入門』 レイモンド・G・ミンテルバーガー著 二瓶社　ISBN978-4-86108-025-8 『不安障害の臨床心理学』　坂野雄二・丹野義彦・杉浦義典　編　東京大学出版会　4-13-011120-5 『抑うつの臨床心理学』　坂本真士・丹野義彦・大野裕　編　東京大学出版会　4-13-011118-3 『認知療法実践ガイド基礎から応用まで―ジュディス・ベックの認知療法テキスト　第2版 』 ジュディス・S・ベック 著　星和書店 978-4-7911-0907-4

参考書	『統合的方法としての認知療法』　東斉彰　編著　岩崎学術出版社　978-4-7533-1053-1 『スキーマ療法　パーソナリティの問題に対する統合的認知行動療法アプローチ』ジェフリー・E・ヤングほか著　金剛出版　978-4-7724-1046-5 『心理療法の諸システム　第6版』ジェームズ・O・プロチャスカ、ジョン・C・ノークロス著　金子書房　978-4-7608-2630-8 『マインドフルネス-基礎と実践-』貝谷久宣・熊野宏昭・越川房子編著　日本評論社　987-4-535-98424-0

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論／認知発達心理学特論I						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5130
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの認知の発達
授業の概要	子どもの言語と認知の発達、とくに実行機能の発達についての講義。
到達目標	（１）　子どもの言語と認知の発達について理解できる【知識・理解】 （２）　子どもの言語発達や認知発達について調べるための手法を知ることができる【汎用的技能】 （３）　子どもの認知発達を理解したうえで関連領域との連携ができる姿勢を身に着けることができる【態度・指向性】
授業計画	第１回　　導入・発表の割り当て 第２回　　幼児期の自己抑制 第３回　　児童期の自己抑制 第４回　　青年期の自己抑制 第５回　　壮年期の自己抑制 第６回　　知的障害の子どもと自己抑制 第７回　　ＡＳＤをもつ子どもと自己抑制 第８回　　ＡＤＨＤをもつ子どもと自己抑制 第９回　　実行機能に関する論文１幼児期の情動 第１０回　実行機能に関する論文２幼児期の実行機能 第１１回　実行機能に関する論文３児童期の情動 第１２回　実行機能に関する論文４児童期の実行機能 第１３回　実行機能に関する論文５発達障がいの子ども 第１４回　実行機能に関する論文６その他 第１５回　総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでいってほしい。 授業前学習：文献講読（３時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（２時間以上）。
授業方法	ゼミナール方式、文献講読・発表
評価基準と評価方法	授業態度（４０％）、課題（６０％） 授業態度には授業中のディスカッションや授業への貢献が含まれる（到達目標（１）～（３）に関する到達度の確認）。 課題として発表資料や発表内容ならびにレポート等を総合的に評価する（到達目標（１）～（３）に関する到達度の確認）。
履修上の注意	受講生それぞれが担当部分の文献を読み発表を行う。 発表資料としてレジュメを受講生全員分用意すること。 履修者の希望や興味・研究の方向性に応じて扱う文献を変更する可能性があるので、 興味がある者は事前にメールか１回目の授業で相談してください。
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論II						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5140
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜6	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	子どもの認知と言語の発達
授業の概要	子どもの認知全般の発達は言葉の発達と深く関連している。認知発達ついての基礎的な文献をまとめた教科書を講読し、実験・調査についての理解を深める。
到達目標	（１）　子どもの認知の発達について理解できる【知識・理解】 （２）　子どもの認知発達について調べるための手法を知ることができる【汎用的技能】 （３）子どもの認知発達を理解したうえで関連領域との連携ができる姿勢を身に着けることができる【態度・指向性】
授業計画	1.　新生児期 2.　感覚・知覚 3.　気質 4.　幼児の認知 5.　言語 6.　人間関係 7.　自己 8.　遊び・集団生活 9.　児童の認知 10.　学校生活 11.　社会認識 12.　障がいと問題行動 13.　論文発表１新生児期～幼児期等 14.　論文発表２言語や気質等 15.　論文発表３その他
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに紹介するもの以外にも、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでいってほしい。 授業前学習：文献講読（３時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（２時間以上）。
授業方法	ゼミナール方式、文献講読・発表
評価基準と評価方法	授業態度（４０％）、課題（６０％） 授業態度には授業中のディスカッションや授業への貢献が含まれる（到達目標（１）～（３）に関する到達度の確認）。 課題として発表資料や発表内容ならびにレポート等を総合的に評価する（到達目標（１）～（３）に関する到達度の確認）。
履修上の注意	受講生それぞれが担当部分の文献を読み発表を行う。 発表資料としてレジュメを受講生全員分用意すること。 履修者の希望や興味・研究の方向性に応じて扱う文献を変更する可能性があるので、 興味がある者は事前にメールか、１回目の授業で相談してください。
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究I						
担当教員	寺見　陽子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5170
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	親の育児意識、育児ストレスとストレスコーピング、子育て支援の臨床
授業の概要	今日の親の育児意識とその背景を理解し、主に親子関係、家族関係を中心に、子どもの発達援助と親のアイデンティティの形成の視点から、子育て支援における臨床家としての役割を考える。
到達目標	(1) 論文購読を通して、親の育児意識とその背景、育児ストレスとストレス・コーピング、ソーシャルサポートに関する知見と理論を学び、子育て支援の理論構築を図ることができる。【知識・理解】 (2) 子育て支援における支援の方法論と技術、その実際について理解し、臨床家としての資質を身に着けることができる。【汎用的技術】 (3) 子育て支援のこれからの在り方とその実際の取り組みへの方向性を見出すことができる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　現代社会と子育ち・子育て一今日の動向と課題 第２回　親と子の発達理解とその理論 第３回　乳幼児期の子どもの発達と親の役割 第４回　親・家庭の養育性とその形成一「親になること」と「親をすること」「家族をすること」 第５回　育児の不安・ストレスの構造と規定要因 第６回　子ども・夫婦・家族の心理的支援とソーシャルサポート 第７回　子育ての支援プログラムと専門機関・子育て関連機関・地域の人材・資源との連携 第８回　事例検討①－保護者の子育て不安へのサポート 第９回　事例検討②－保育・子育て支援の現場で気になる親子の支援 第10回　事例検討③－課題を抱えた子どもとその保護者の支援 第11回　事例検討④－発達障害を持つ子どもとその保護者への支援 第12回　事例検討⑤－精神的な課題を抱えた保護者とその子ども・家族への支援 第13回　子育て支援現場における臨床家の役割 第14回　乳幼児の保育現場における臨床家の役割 第15回　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テーマに関連する論文購読とレジメを作成する。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：テーマに関連する論文の講読。＜学習時間：2時間＞ 第8回から第13回の6回は、事例検討等ともに、研究論文のプレゼンテーションを実施するので、子育てに関する学術論文の検索と購読、レジメの作成をする。
授業方法	演習－論文を講読し、それをもとにディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	小レポート・プレゼンテーション５０点　レポート５０点 到達目標(1)(2)及び(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	論文購読等、主体的な取り組みを望む。
教科書	プリント配布
参考書	寺見陽子編「現代の父親の親意識と子育て実践－父親の養育性・役割取得を促す教育プログラムの開発」ナカニシヤ出版（2019） 寺見陽子編著「子育て・子育ち支援学」保育出版（2011）

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究II						
担当教員	谷川　弘治					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5180
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	難治性疾患のある子どもと青年の発達と支援　－　小児・AYA世代のがんを中心に
授業の概要	医療の進歩とともに難治性疾患のある子ども・青年の予後は改善してきており，通常の生活を送ることができる人たちも増えてきている。しかし，住み慣れた家から離れて過ごす入院中に過大なストレスがかかるだけでなく，退院後もさまざまな「生活のしづらさ」に直面することが少なくない。そのため，医療，保育，教育，労働等の枠組みを超えたトータルな支援システムの構築が求められている。ここでは，小児・AYA世代のがんを中心に難治性疾患のある子どもと青年の発達と支援の諸課題について学びを深めていきたい。
到達目標	(1)難治性疾患とつきあいながら成長・発達していく子ども・青年と家族を理解する視点を述べることができる。［知識・理解（２）］ (2)小児・AYA世代のがんの治療中から治療後までを見据え，心理支援の専門職としてできることを，事例の状況に即して検討できる。［知識・理解（２）］ (3)多職種協働を促進するために留意し，行動すべきことを検討できる。［知識・理解（２）］
授業計画	第1回　病気の子どもと家族の理解①　臨床健康心理学の方法（臨床の知，健康，トータルケアと緩和ケア，多職種協働） 第2回　病気の子どもと家族の理解②　病気とつきあいながら自分らしく生きる（子どもの生活） 第3回　病気の子どもと家族の理解③　病気とつきあいながら自分らしく生きる（家族の生活） 第4回　病気の子どもと家族の理解④　小児・AYA世代がん患者と家族のトータルケアと長期フォローアップ 第5回　入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進①　親しみやすい病院環境の提供・日常性の確保 第6回　入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進②　サイコロジカルプレパレーション 第7回　入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進③　セラピューティックプレイアクティビティ 第8回　入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進④　青年期の入院環境整備 第9回　通常の生活への復帰と長期フォローアップ①　退院・復学の支援 第10回　通常の生活への復帰と長期フォローアップ②　学校生活における試行錯誤 第11回　通常の生活への復帰と長期フォローアップ③　進学と就職 第12回　通常の生活への復帰と長期フォローアップ④　恋愛と結婚，妊娠・出産・育児 第13回　エンドオブライフケア①　死を迎えることと看取ること 第14回　エンドオブライフケア②　遺族の支援 第15回　小児・AYA世代がん患者・経験者のトータルケアにおける心理職の役割と課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	準備：最初に各自がテーマを設定し，授業と並行して調査研究に取り組み，最終回に発表する。（学習時間90分） 事前に提示された課題に取り組んで授業に参加する。（学習時間60分） 事後：授業を振り返り，感じたこと，考えたこと，胸に引っかかっていることを記録に留める。（学習時間30分）
授業方法	講義，事例検討，研究発表，ロールプレイなどを組み合わせる。
評価基準と評価方法	＜理想的な達成の基準＞ ・明確で柔軟な視点をもって，小児・AYA世代のがん患者と家族の状況をアセスメントできている。（到達目標(1)） ・小児・AYA世代がんの治療中，治療後，エンドオブライフ期に応じた，適切なアセスメントに基づく支援を計画できる。（到達目標(2)） ・支援を展開していく過程に多職種協働の視点が活かされている。（到達目標(3)） ＜評価方法＞ ・各回の授業にむけて事前に提示された課題の提出：40%　到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 ・授業中の学び：20%　到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 ・最終回に提出・発表するレポート：40%　到達目標(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	・授業計画に沿いながら受講者自身が作り上げる授業であり，積極的な提案を期待する。 ・グループワークでは，いま，ここで感じたことを言葉にすることが大切である。しかし，いろいろな思いが交錯して言葉にならないときもある。また，グループに参加できないときもあるかもしれない。そのようなときは，授業の流れを外から見ることも大切にしたい。
教科書	指定しない。
参考書	＜健康心理学と医療・看護関連分野＞ ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第８集：表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り，共有するために』、谷川弘治ほか、私製 （ https://k-tanigawa.com ） ・『医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-5033-4 ・『子ども療養支援』、田中恭子（編）、中山書店、9784521739625 ・"Adherence to Pediatric Medical Regimens", second ed., Michael A. Ripoff, SPRINGER, 978-1-4419-814

参考書	3-1 ・『病弱・虚弱児の医療・療育・教育（改定第3版）』、宮本信也・土橋圭子（編）、金芳堂、978-4-7653-1627-9 ・『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』、小野次郎ほか、ミネルヴァ書房,978-4-623-06153-2 ・『臨床健康心理学 ケースフォーミュレーションと心理療法』、安藤美華代（監訳）、岡山大学出版会、978-4-9042-2816-6 ・『健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり』、島井哲志・長田久雄・小玉正博、有斐閣アルマ、978-4-6411-2386-1 ・『病気の子どもの心理社会的支援入門 医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ人に』第2版、谷川弘治ほか（編）、ナカニシヤ出版978-4-7795-0289-7 ・『病院のアート　医療現場の再生と未来』、アートミーツケア学会（編）、生活書院、9784865000283 ・『小児看護ケアモデル実践集』松森直美, 蝦名美智子（編）, へるす出版, 9784892697784 ＜小児がん＞ ・『小児血液・腫瘍学』, 日本小児血液・がん学会（編）, 診断と治療社, 978-4787820983 ・『チャーリーブラウンなぜなんだい ともだちがおもい病気になったとき』、チャールズ・シュルツ（細谷亮太 訳）、岩崎書店、978-4-2658-0069-8 『君と白血病』LS Baker,細谷亮太（訳）, 医学書院, 4-260-34002-6 ＜病院における遊び＞ ・"Handbook of Medical Play Therapy and Child Life -Interventions in Clinical and Medical Settings", Lawrence C. Rubin(ed.), ROUTLEDGE, 978-1-138-69001-1 ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集 第7 集：子どもの遊びと遊び活動』、谷川弘治、私製（https://k-tanigawa.com） ・『チャイルドライフカウンシル 遊び活動レシピブック』、谷川弘治ほか（訳）、私製(https://k-tanigawa.com) ＜自立支援＞ ・『大人になりゆくあなたに 小児慢性疾患の治療・定期検診を受けながら大人の準備をするためのガイドブック（中学生・高校生向）』、キャリーオーバーキャリアガイダンスハンドブック検討会（編）、私製(https://k-tanigawa.com) ・『社会にはばたくときに 社会人として歩み始めた小児慢性疾患患者・経験者のみなさんに』、キャリーオーバーキャリアガイダンスハンドブック検討会（編）、私製(https://k-tanigawa.com) ＜緩和ケア＞ ・『子どもたちの笑顔を支える小児緩和ケア』、多田羅竜平、金芳堂、978-4-7653-1705-4 ・『空にかかるはしご 天使になった子どもと生きるグリーフサポートブック』、「空にかかるはしご」編集委員会、九州大学大学院 ・"The private worlds of dying children", Bluebond-Langner, M. ,Princeton paperback, 978-0-6910-2820-0

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特論／発達心理学特論I						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5090
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	乳幼児期の発達
授業の概要	乳幼児期におけるさまざまな能力の発達についての講義である。主に、心の理論、言葉、そして情動発達発達を含む認知的側面の発達についての理解を論文講読等を通して深める。これからの研究に必要となる論文やデータの読み方についてていねいに見ていく。
到達目標	（１）　発達心理学の基礎的な知識を身に着けることができる【知識・理解】 （２）　専門的な文献を読み理解できる【汎用的技能】 （３）　関連分野の知識を獲得し、他分野との連携ができる姿勢を身に着けることができる【態度・指向性】
授業計画	第1回　導入・発表担当割り当て 第2回　発達の基礎１乳児期 第3回　発達の基礎２幼児期 第4回　発達の基礎３児童期 第5回　言語の発達の基礎１乳児期 第6回　言語の発達の基礎２幼児期 第7回　言語の発達の基礎３児童期 第8回　情動発達１乳児期 第9回　情動発達２幼児期 第10回　情動発達３児童期 第11回　論文の発表１乳児期 第12回　論文の発表２幼児期 第13回　論文の発達３児童期 第14回　論文の発達４その他 第15回　総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでいってほしい。 授業前学習：文献講読（３時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（２時間以上）。
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション
評価基準と評価方法	授業態度（４０％）、課題（６０％） 授業態度には授業中のディスカッションや授業への貢献が含まれる（到達目標（１）～（３）に関する到達度の確認）。 課題として発表資料や発表内容ならびにレポート等を総合的に評価する（到達目標（１）～（３）に関する到達度の確認）。
履修上の注意	2～12では、担当者は事前に文献を読み、レジュメを用意して発表をし、ディスカッションをするスタイル。 13.&14.では興味のある研究論文や文献を個別に調べ読んだものを発表する。文献の発表担当者以外も論文を読んでディスカッション（質問やコメント）をする。発表担当者が欠席をする場合は早めに連絡をすること 発表担当者は授業までにレジュメを人数分用意すること。 ＊受講者の興味や研究の方向性に応じて、扱う文献を変更することもできます。 希望者は事前にメールか、１回目の授業で相談してください。
教科書	指定しない
参考書	授業で紹介する

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特論II						
担当教員	久津木　文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5100
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	乳幼児期の発達
授業の概要	発達心理学特論Ｉで読んだ文献をもとにした比較的新しい論文を読むことで 学術論文の探し方や理解のしかたを学ぶのが目的である。個別に気になる・興味のあるテーマに沿って、古い文献から新しい文献を探り、めぼしいものを講読し、その内容を理解して発表をする。最終的には、自分が興味をもったテーマについてすでに何がわかっており、最新動向はなにかについて一貫性をもってまとめられるようになることを目指す。
到達目標	（１）　発達心理学の基礎的な知識を身に着けることができる【知識・理解】 （２）　専門的な文献を読み理解できる【汎用的技能】 （３）　関連分野の知識を獲得し、他分野との連携ができる姿勢を身に着けることができる【態度・指向性】
授業計画	第1回　導入・発表担当割り当て 第2回　文献講読（先行研究）・発表 (1)乳児期 第3回　文献講読（先行研究）・発表 (2)幼児期 第4回　文献講読（先行研究）・発表 (3)児童期 第5回　論文講読（先行研究）(1)認知発達 第6回　論文講読（先行研究）(2)社会性発達 第7回　論文講読（先行研究）(3)言語発達 第8回　論文講読（先行研究）(4)発達障がい 第9回　論文講読（最新研究）(1)認知発達 第10回　論文講読（最新研究）(2)社会性発達 第11回　論文講読（最新研究）(3)言語発達 第12回　論文講読（最新研究）(4)発達障がい 第13回　個人の興味の発表 認知発達・社会性発達 第14回　個人の興味の発表 言語発達・発達障害 第15回　総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	メインに扱うテキストのみならず、関連する引用文献、または最新の文献にも興味を広げ読んでいってほしい。 授業前学習：文献講読（３時間以上）。 授業後学習：関連する研究について調べる（２時間以上）。
授業方法	発表、論文講読、ディスカッション
評価基準と評価方法	授業態度（４０％）、課題（６０％） 授業態度には授業中のディスカッションや授業への貢献が含まれる（到達目標（１）～（３）に関する到達度の確認）。 課題として発表資料や発表内容ならびにレポート等を総合的に評価する（到達目標（１）～（３）に関する到達度の確認）。
履修上の注意	2～12では、担当者は事前に文献を読み、レジュメを用意して発表をし、ディスカッションをするスタイル。 13.＆14.では興味のある研究論文や文献を個別に調べ読んだものを発表する。文献の発表担当者以外も論文を読んでディスカッション（質問やコメント）をする。発表担当者が欠席をする場合は早めに連絡をすること 発表担当者は授業までにレジュメを人数分用意すること。 受講者の興味や研究の方向性に応じて、扱う文献を変更することができます。希望者は事にメール、、もしくは１回目の授業で相談してください。
教科書	指定しない
参考書	授業で紹介する

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	比較行動学特論I						
担当教員	待田　昌二					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5110
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜6	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	進化論の理解と人間を進化論的に考える視点の取得
授業の概要	比較行動学（Ethology）は動物の行動を研究する学問分野である。生物学にルーツを持つ学問であり、進化論的視点で行動を分析する点に特徴がある。早くから心理学と交流あるいは反発しながら、心理学に多大な影響を与えてきた。本講義ではEthologyの根幹であるダーウィンの進化論から出発し、行動の進化や行動の遺伝子といった言葉の正確な理解、ヒトや動物の行動を進化論的視点から考えることの意味を、具体的な行動を取り上げながら考えていく。
到達目標	進化論を理解し、人間を進化論的視点から理解できるようになる。
授業計画	第1回　身体の進化と心の進化 第2回　進化の概念 第3回　人類進化（１）：霊長類 第4回　人類進化（２）：類人猿と人類 第5回　人類進化（３）：初期人類 第6回　人類進化（４）：ホモ・エレクトス 第7回　人類進化（５）：ホモ・サピエンス 第8回　人類進化（６）：アウト・オブ・アフリカ 第9回　遺伝子と行動（１）：遺伝子の働き 第10回　血縁者間の葛藤 第11回　互恵性の進化 第12回　ヒトの協力行動 第13回　雄と雌の葛藤―性淘汰の理論と証拠 第14回　繁殖と配偶システム 第15回　ヒトの配偶関係
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前配付プリントを読み、疑問点、自身の意見をまとめる（学習時間３時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間１時間）
授業方法	講義、発表、討論
評価基準と評価方法	授業での発表、討論４０％。発表、討論でのコメント、意見の内容の的確さを評価する。 中間レポート３０％、期末レポート３０％。レポートの体裁、資料の理解の正確さ、意見の内容の的確さを評価する。
履修上の注意	事前学習に取り組み、授業で積極的に発言・議論すること。
教科書	使用しない
参考書	Ｗｅｂ上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭CampusLinkから、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	比較行動学特論II						
担当教員	待田　昌二					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5120
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜6	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	進化論的視点から見た人間の感情と欲求
授業の概要	比較行動学(Ethology)と同様の視点から人間の心理・行動を研究する分野として進化心理学が発展しつつある。現在では、人間行動の起源の理解においてはもちろんのこと、現代の生活環境への不適応といった問題の理解においても重要な学問分野と見なされている。しかし、進化論に対する誤解や進化論的視点の安易な適用による研究もあり、反発も大きい。人間の心理、特に、感情や欲求というシステムを進化論的視点から読みなおし、もともと適応的であったシステムが現代生活において不適応を引き起こすメカニズムについて、いくつかの文献を読みながら学び考えていく。
到達目標	人の心理を進化論的視点から考えられるようになること
授業計画	第1回　ローレンツの思想：「本能」とその機能錯誤 第2回　欲求・感情という概念 第3回　欲求・感情の問題点 第4回　感情は心理学においてどのように捉えられているか 第5回　感情の進化論的理解 (1) 第6回　感情の進化論的理解 (2) 第7回　感情の進化論的理解についてディスカッション 第8回　欲求は心理学においてどのように捉えられているか (1) 第9回　欲求は心理学においてどのように捉えられているか (2) 第10回　欲求の進化論的理解 (1) 第11回　欲求の進化論的理解 (2) 第12回　欲求の進化論的理解 (3) 第13回　欲求の進化論的理解についてディスカッション 第14回　現代社会という環境と進化心理学 第15回　まとめのディスカッション
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前配付プリントを読み、疑問点、自身の意見をまとめる（学習時間３時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間１時間）
授業方法	講義、発表、討論
評価基準と評価方法	授業での発表、討論４０％。発表、討論でのコメント、意見の内容の的確さを評価する。 中間レポート３０％、期末レポート３０％。レポートの体裁、資料の理解の正確さ、意見の内容の的確さを評価する。
履修上の注意	比較行動学特論Ｉに引き続いての履修が望ましい
教科書	使用しない
参考書	授業において指示する

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文作成に向けて、研究テーマを模索する。
授業の概要	喪失やトラウマおよびその関連領域について、文献研究を通して理解を深めるとともに、自身の研究テーマを模索する。
到達目標	(1) 喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマと関連のある文献を読み、要点をまとめて整理することができる。【知識・理解】 (2) 必要な研究倫理について説明することができる。【研究倫理】 (3) ディスカッションを通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【知識・理解】 (4) 修士論文の研究計画について、ある程度方向性を決めることができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　文献発表とディスカッション (1)：先行研究の収集 第3回　文献発表とディスカッション (2)：先行研究の収集 第4回　文献発表とディスカッション (3)：先行研究のまとめ 第5回　文献発表とディスカッション (4)：先行研究のまとめ 第6回　文献発表とディスカッション (5)：研究テーマの明確化 第7回　文献発表とディスカッション (6)：研究テーマの明確化 第8回　文献発表とディスカッション (7)：先行研究の収集 第9回　文献発表とディスカッション (8)：先行研究の収集 第10回　文献発表とディスカッション (9)：先行研究のまとめ 第11回　文献発表とディスカッション (10)：先行研究のまとめ 第12回　文献発表とディスカッション (11)：研究テーマの明確化 第13回　文献発表とディスカッション (12)：研究テーマの明確化 第14回　文献発表とディスカッション (13)：研究計画 第15回　文献発表とディスカッション (14)：研究計画
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、資料にまとめる。＜2時間＞ 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備。＜2時間＞
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	発表(50%)：到達目標(1)(2)(4)に関する到達度の確認。 授業への参加度(50%)：到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。
教科書	なし
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の基礎的な理論や技法について学ぶとともに、修士論文作成に向けて、臨床心理学的研究のテーマを模索する。
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について、文献やロールプレイを通して学びつつ、この領域における先行研究を概観することを通して、自身の研究テーマを模索する。
到達目標	1.家族療法やブリーフセラピーに関する基礎的な理論や技法について説明できる。【知識・理解】 2.臨床心理学的研究の中から自身の関心のあるテーマを取り上げ、発表することができる。【研究倫理】
授業計画	第1回　オリエンテーション　講義のすすめ方 第2回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション①　家族療法総論 第3回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション②　多世代派家族療法 第4回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③　構造派家族療法 第5回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④　コミュニケーション派家族療法 第6回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤　システムズアプローチ 第7回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥　家族療法まとめ 第8回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦　ブリーフセラピー総論 第9回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧　解決志向アプローチ 第10回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨　社会構成主義心理療法総論 第11回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩　ナラティヴ・セラピー 第12回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪　コラボレイティヴ・アプローチ 第13回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫　リフレクティング・プロセス 第14回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬　ブリーフセラピーまとめ 第15回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：2時間 ） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：2時間）
授業方法	ゼミ形式で講義、演習、発表、グループディスカッション、ロールプレイなどを行う。
評価基準と評価方法	・発表50%：（到達目標2.に関する到達度の確認） ・質疑応答25%：（到達目標1.に関する到達度の確認） ・討論25%：（到達目標1.に関する到達度の確認）
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜6	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究
授業の概要	臨床心理学（特に精神分析、対象関係論）に関する文献を購読し、興味のある課題と関連づけ、研究計画を作成します。
到達目標	①修士論文のテーマと研究計画を明確にし伝えることができる。【知識・理解】【研究倫理】 ②討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【知識・理解】【研究倫理】 ③授業を通して得られた知識や理解を、臨床への態度に活かすことができる。【汎用的技能】【研究倫理】
授業計画	第 1回　オリエンテーション　授業の進め方 第 2回　研究テーマの検討(1) 第 3回　研究テーマの検討(2) 第 4回　研究テーマの検討(3) 第 5回　研究テーマの検討(4) 第 6回　先行研究の整理(1) 第 7回　先行研究の整理(2) 第 8回　先行研究の整理(3) 第 9回　先行研究の整理(4) 第10回　研究計画書の作成(1) 第11回　研究計画書の作成(2) 第12回　研究計画書の作成(3) 第13回　研究計画書の作成(4) 第14回　中間発表(1)　※学部ゼミとの合同授業 第15回　中間発表(2)　※学部ゼミとの合同授業
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：精神分析、対象関係論、研究テーマに関連する文献の購読、研究テーマについて検討を行うための資料の作成、研究計画書の作成、発表用資料の作成。＜２時間＞ 授業後学習：提出物の加筆修正。＜２時間＞
授業方法	講義、演習（ディスカッション、プレゼンテーション）
評価基準と評価方法	平常点（50%）、提出物（50%）により評価をおこなう。 平常点：授業への参加貢献。到達目標①②および③に関する到達度の確認。 提出物：到達目標①および③に関する到達度の確認。
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 学外見学・研修を行うことがあります。
教科書	なし。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜6	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文の研究テーマを探求する
授業の概要	修士論文の作成に取り組む準備として、自らの関心のあるテーマに関連する文献調査を行い、その報告とディスカッションを通じて、修士論文の研究テーマとして適切なテーマを探求する。
到達目標	（１）関心のあるテーマに関連した適切な文献を選択できる。【知識・理解】 （２）修士論文の研究テーマのおよその方向性を定めることができる。【研究倫理】
授業計画	第１回　オリエンテーション：修士論文の作成過程について 第２回　臨床心理学の研究法⑴：量的研究について 第３回　臨床心理学の研究法⑵：質的研究について 第４回　臨床心理学の研究法⑶：課題意識の明確化について 第５回　臨床心理学の研究法⑷：先行研究の調査について 第６回　臨床心理学の研究法⑸：先行研究の分析について 第７回　第一次文献調査⑴：報告 第８回　第一次文献調査⑵：ディスカッション 第９回　第二次文献調査⑴：報告 第10回　第二次文献調査⑵：ディスカッション 第11回　第一次研究テーマの検討⑴：報告 第12回　第一次研究テーマの検討⑵：ディスカッション 第13回　第二次研究テーマの検討⑴：報告 第14回　第二次研究テーマの検討⑵：ディスカッション 第15回　まとめ：総括と今後の課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること。＜２時間＞ 授業後は文献の追加調査を行うこと。＜２時間＞
授業方法	演習形式。報告と質疑応答、ディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	授業での報告60%、質疑応答とディスカッション40% 授業での報告：適切な文献を探索して的確にまとめて報告できているかを評価する。到達目標（１）に関する到達度の確認。 質疑応答とディスカッション：テーマの持つ意味、社会との結びつきについての理解度を評価する。到達目標（２）に関する到達度の確認。
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文作成に向けて，論文の作成法を学ぶと共に自身の研究テーマを探索する。
授業の概要	主として子どもや子育て，親支援，障碍（がい）に関連した臨床心理学領域における学術論文の形式や読み方について理解を深め，修士論文の研究に向けてテーマを探す。
到達目標	1.臨床心理学の研究論文を読み解き，発表することができる。【知識・理解】【研究倫理】 2.修士論文のテーマを選定することができる。【汎用的技能】【知識・理解】 3.修士論文のテーマに関連した課題性を提示することができる。【汎用的技能】【研究倫理】
授業計画	第1回：オリエンテーション　自己の関心のある研究テーマの紹介と発表の割り当て 第2回：文献を基にした発表とディスカッション（１）卒業研究の発表 第3回：文献を基にした発表とディスカッション（２）卒業研究の再検討 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（３）発展的研究のテーマ検討 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（４）テーマに関する文献検討 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（５）キーワードの探索と知識整理 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（６）キーワードに関する文献検討 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（７）関連概念の探究 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（８）調査方法の探究 第10回：文献を基にした発表とディスカッション（９）複数のキーワードの選出 第11回：文献を基にした発表とディスカッション（１０）研究アイデアの生成 第12回：研究テーマの設定と課題性の検討（１）修士論文用のキーワードの選定 第13回：研究テーマの設定と課題性の検討（２）キーワードに関する追加の文献収集 第14回：研究テーマの設定と課題性の検討（３）キーワードの修正と再検討 第15回：授業の総括と夏休みの課題について
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて，理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ，発表の振り返りを行うとともに，次に読み解く文献を収集する。（学習時間：2時間）
授業方法	演習（ゼミ）形式を主とするが，適宜個別の指導を併用する。各回，発表者が先行研究や書籍の要約，もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い，その内容について受講生と教員がディスカッションを行い，適宜補足の指導を行う。加えて，松蔭 manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標1，2の達成度確認 発表・提出物（50%）：到達目標1，2，3の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし，欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに，個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え，改善点を提示する。
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。
到達目標	１．家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。【知識・理解】【研究倫理】 ２．関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。【知識・理解】【研究倫理】
授業計画	第1回　授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回　臨床心理学における研究方法について 第3回　臨床心理学研究の実際（家族療法）（１） 第4回　臨床心理学研究の実際（システム理論）（２） 第5回　臨床心理学研究の実際（ジョイニング）（３） 第6回　臨床心理学研究の実際（MRI理論）（４） 第7回　臨床心理学研究の実際（リフレーミング）（５） 第8回　臨床心理学研究の実際（ブリーフセラピー）（６） 第9回　臨床心理学研究の実際（ナラティヴセラピー）（７） 第10回　臨床心理学研究の実際（社会構成主義心理療法）（８） 第11回　臨床心理学研究の実際（量的研究）（９） 第12回　臨床心理学研究の実際（実験研究）（１０） 第13回　臨床心理学研究の実際（調査研究）（１１） 第14回　臨床心理学研究の実際（効果研究）（１２） 第15回　臨床心理学研究の実際（質的研究）（１３）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学のみならず、家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文にて予習（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：2時間）
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ
評価基準と評価方法	発表（60%）、質疑応答（20%）、討論（20%） 発表：与えられたテーマに関して、十分に文献を調べ、他者にわかりやすく説明できることの確認。また、自らが選んだ研究テーマに関して研究計画を立て、他者に論理的に説明できることの評価。到達目標の（１）（２）に関する到達度の確認。 質疑応答と討論：様々なテーマに関して臨床心理学的なものの見方を獲得でき、適切に表現できているのかどうかについての評価。到達目標の（１）（２）に関する到達度の確認。
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。
教科書	なし
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文研究テーマの模索
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを模索する。
到達目標	(1)関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。【知識・理解】 (2)他者の発表を聞いて、適切なコメントをすることができる。【知識・理解】 (3)必要な研究倫理について、説明することができる。【研究倫理】 (4)修士論文研究の、おおよその方向性を決められる。【知識・理解】
授業計画	#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1)　報告者１による報告と討論１ #02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2)　報告者２による報告と討論１ #03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3)　報告者１による報告と討論２ #04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4)　報告者２による報告と討論２ #05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5)　報告者１による報告と討論３ #06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6)　報告者２による報告と討論３ #07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7)　報告者１による報告と討論４ #08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8)　報告者２による報告と討論４ #09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9)　報告者１による報告と討論５ #10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10)　報告者２による報告と討論５ #11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11)　報告者１によるテーマの絞り込み１ #12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12)　報告者２によるテーマの絞り込み１ #13：関心のある領域についての文献レビューと討論(13)　報告者１によるテーマの絞り込み２ #14：関心のある領域についての文献レビューと討論(14)　報告者２によるテーマの絞り込み２ #15：関心のある領域についての文献レビューと討論(15)　まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめる。 授業後学習（2時間以上）：授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおく。
授業方法	演習形式。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。
評価基準と評価方法	発表（50%）：発表資料ならびに発表の仕方について評価する。【到達目標(1)、(3)、(4)の到達度確認】 討論への参加（50%）：他者の発表に対するコメントの内容について評価する。【到達目標(2)、(3)の到達度確認】
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は，受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進度によって、授業計画の内容は変化する。 なお、担当者は対人関係精神分析／関係精神分析的なオリエンテーションで心理臨床活動を行っていることを理解しておくこと。
教科書	なし。
参考書	指導の過程において、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文の研究計画の立案
授業の概要	喪失やトラウマおよびその関連領域における各自の研究テーマについて、修士論文の研究計画を立案することを目指す。先行研究をもとに各自の研究テーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てる。
到達目標	(1) 各自の研究テーマと関連のある文献を読み、要点をまとめて整理することができる。【知識・理解】 (2) 必要な研究倫理について説明することができる。【研究倫理】 (3) ディスカッションを通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【知識・理解】 (4) 修士論文のテーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てることができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　具体的な研究計画を立てる (1)：研究方法の検討 第3回　具体的な研究計画を立てる (2)：研究方法の検討 第4回　具体的な研究計画を立てる (3)：尺度の収集 第5回　具体的な研究計画を立てる (4)：尺度の収集 第6回　具体的な研究計画を立てる (5)：質問項目の検討 第7回　具体的な研究計画を立てる (6)：質問項目の検討 第8回　具体的な研究計画を立てる (7)：データ収集の方法 第9回　具体的な研究計画を立てる (8)：データ収集の方法 第10回　具体的な研究計画を立てる (9)：データ処理法の検討 第11回　具体的な研究計画を立てる (10)：データ処理法の検討 第12回　具体的な研究計画を立てる (11)：研究計画書の作成 第13回　具体的な研究計画を立てる (12)：研究計画書の作成 第14回　具体的な研究計画を立てる (13)：研究計画書の修正 第15回　具体的な研究計画を立てる (14)：研究計画書の修正
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、資料にまとめる。＜2時間＞ 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備。＜2時間＞
授業方法	演習形式
評価基準と評価方法	発表(50%)：到達目標(1)(2)(4)に関する到達度の確認。 授業への参加度(50%)：到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。
教科書	なし
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	木場　律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学的援助（家族療法、ブリーフセラピー）の理論や技法について学ぶとともに、修士論文作成に向けて、臨床心理学的研究のテーマを決定する。
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について、文献やロールプレイを通して学びつつ、この領域における先行研究を概観することを通して、自身の研究テーマを決定する。
到達目標	1.家族療法やブリーフセラピーに関する理論や技法について説明できる。【知識・理解】 2.臨床心理学的研究の中から自身の関心のあるテーマを取り上げ、発表することができる。【研究倫理】 3.修士論文のための研究計画を立案することができる。【研究倫理】
授業計画	第1回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション①　家族療法総論 第2回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション②　多世代派家族療法 第3回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション③　構造派家族療法 第4回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション④　コミュニケーション派家族療法 第5回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑤　システムズアプローチ 第6回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑥　家族療法まとめ 第7回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑦　ブリーフセラピー総論 第8回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑧　解決志向アプローチ 第9回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑨　社会構成主義心理療法総論 第10回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑩　ナラティヴ・セラピー 第11回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑪　コラボレイティヴ・アプローチ 第12回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑫　リフレクティング・プロセス 第13回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑬　ブリーフセラピーまとめ 第14回　文献レビュー・ロールプレイとディスカッション⑭　まとめ 第15回　修士論文テーマの決定　研究計画
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文を読んで予習する。（学習時間：2時間 ） 授業後学習：講義で取り上げた内容の要点を確認し、整理しておく。（学習時間：2時間）
授業方法	ゼミ形式で講義、演習、発表、グループディスカッション、ロールプレイなどを行う。
評価基準と評価方法	・発表50%：（到達目標2.に関する到達度の確認） ・質疑応答25%：（到達目標1.および3.に関する到達度の確認） ・討論25%：（到達目標1.および3.に関する到達度の確認）
履修上の注意	自発的に質問や意見を出し、積極的に参加することを求める。
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜6	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文作成に向けての研究
授業の概要	「臨床心理学特別研究Ａ」の内容を発展させ、レビュー論文を作成します。 研究計画に基づき、データの収集と分析を行います。
到達目標	①修士論文のテーマに関わる先行研究の成果と課題を、論文、および口頭により明確化できる。【知識・理解】【研究倫理】 ②修士論文の研究結果を明確にし伝えることができる。【知識・理解】【研究倫理】 ③討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【知識・理解】【研究倫理】 ④授業を通じて得られた知識や理解を、臨床の実践に活かすことができる。【汎用的技能】【研究倫理】
授業計画	第 1回　オリエンテーション　これまでのふり返り、授業の進め方 第 2回　レビュー論文作成(1) 第 3回　レビュー論文作成(2) 第 4回　レビュー論文作成(3) 第 5回　レビュー論文作成(4) 第 6回　レビュー論文作成(5) 第 7回　レビュー論文作成(6) 第 8回　データの分析(1) 第 9回　データの分析(2) 第10回　データの分析(3) 第11回　データの分析(4) 第12回　データの分析(5) 第13回　データの分析(6) 第14回　中間発表(1)　※学部ゼミとの合同授業 第15回　中間発表(2)　※学部ゼミとの合同授業
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、討議用資料作成、レビュー論文作成、データ分析、発表用資料作成。＜２時間＞ 授業後学習：提出物の加筆修正。＜２時間＞
授業方法	講義、演習（ディスカッション、プレゼンテーション）
評価基準と評価方法	平常点（50%）、提出物（50%）により評価をおこなう。 平常点：授業への参加貢献。到達目標①②および③に関する到達度の確認。 提出物：レビュー論文など。到達目標①および③に関する到達度の確認。
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 学外見学・研修を行うことがあります。
教科書	なし。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜6	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文の研究テーマを設定する
授業の概要	文献調査と研究計画の試行的な立案とを積み重ね、ディスカッションを深めることで、修士論文の研究テーマとして適切なテーマを設定することを目指す。
到達目標	（１）文献調査に基づき、関心のあるテーマについて概説できる。【知識・理解】 （２）修士論文のテーマを設定し、研究計画を立案できる。【研究倫理】
授業計画	第１回　オリエンテーション：修士論文の作成過程について 第２回　臨床心理学の研究方法⑴：適切な理論的枠組みの選択について 第３回　臨床心理学の研究方法⑵：研究方法の選択について 第４回　臨床心理学の研究方法⑶：データの収集について 第５回　臨床心理学の研究方法⑷：データの分析について 第６回　臨床心理学の研究方法⑸：考察について 第７回　研究テーマの検討⑴：報告 第８回　研究テーマの検討⑵：ディスカッション 第９回　先行研究の調査⑴：報告 第10回　先行研究の調査⑵：ディスカッション 第11回　研究テーマの決定⑴：報告 第12回　研究テーマの決定⑵：ディスカッション 第13回　研究計画の立案⑴：報告 第14回　研究計画の立案⑵：ディスカッション 第15回　まとめ：総括と今後の課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること。＜２時間＞ 授業後は文献の追加調査や研究計画の推敲を行うこと。＜２時間＞
授業方法	演習形式。報告と質疑応答、ディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	授業での報告60%、質疑応答とディスカッション40% 授業での報告：的確にテーマを設定して適切な研究方法を立案できているかを評価する。到達目標（２）に関する到達度の確認。 質疑応答とディスカッション：テーマの持つ意味、社会との結びつきについての理解度を評価する。到達目標（１）に関する到達度の確認。
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文のための研究計画を作成する。
授業の概要	臨床心理学特別研究Aから引き続き，個別のテーマに沿って文献を読むことやディスカッションを行う。そしてその中で，自分のテーマに応じた具体的な研究の手続きについて学び，研究計画を作成していく。
到達目標	1. 自分自身の研究テーマに関連した研究方法とその特徴を説明することができる。【汎用的技能】【知識・理解】 2. 自分自身の研究テーマの具体的なテーマや鍵となる概念を決めることができる。【汎用的技能】【研究倫理】 3. 自分自身の研究テーマに応じた具体的な研究計画を考えることができる。【研究倫理】【知識・理解】
授業計画	第1回：夏休み中の課題に基づいた発表（１）キーワードに関する先行研究の要約 第2回：夏休み中の課題に基づいた発表（２）先行研究の課題点の検討 第3回：夏休み中の課題に基づいた発表（３）先行研究の発展案の検討 第4回：文献レビューの作成（１）論文の収集と要約発表 第5回：文献レビューの作成（２）論文の追加収集と再発表 第6回：文献レビューの作成（３）先行研究の課題点の検討（課題点1の提起） 第7回：文献レビューの作成（４）先行研究の課題点の検討（課題点2の提起） 第8回：文献レビューの作成（５）先行研究の発展案の検討（第1案の作成） 第9回：文献レビューの作成（６）先行研究の発展案の検討（第2案の作成） 第10回：問題と目的の検討（１）発展研究の問いの生成 第11回：問題と目的の検討（２）問いに対する仮説の生成 第12回：方法と結果の分析方法の検討（１）仮説検証方法の考案 第13回：方法と結果の分析方法の検討（２）仮説検証方法の具体化 第14回：研究計画書の作成と発表（１）主に「問題と目的」から「仮説」の立ち上げまで 第15回：研究計画書の作成と発表（２）主に「仮説」から「方法」まで
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて，理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ，発表の振り返りを行うとともに，次に読み解く文献を収集する。（学習時間：2時間）
授業方法	演習（ゼミ）形式を主とするが，適宜個別の指導を併用する。各回，発表者が先行研究や書籍の要約，もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い，その内容について受講生と教員がディスカッションを行い，適宜補足の指導を行う。加えて，松蔭 manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標1，2の達成度確認 発表・提出物（50%）：到達目標1，2，3の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし，欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに，個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え，改善点を提示する。
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜6	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。
到達目標	１．家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。【知識・理解】【研究倫理】 ２．関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。【知識・理解】【研究倫理】 ３．修士論文のための研究計画を立案することができる。【知識・理解】【研究倫理】
授業計画	第1回　授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回　臨床心理学における研究方法について 第3回　臨床心理学研究の実際（家族療法）（１） 第4回　臨床心理学研究の実際（システム理論）（２） 第5回　臨床心理学研究の実際（ジョイニング）（３） 第6回　臨床心理学研究の実際（MRI理論について）（４） 第7回　臨床心理学研究の実際（リフレーミング）（５） 第8回　臨床心理学研究の実際（ブリーフセラピー）（６） 第9回　臨床心理学研究の実際（ナラティヴセラピー）（７） 第10回　臨床心理学研究の実際（社会構成主義心理療法）（８） 第11回　臨床心理学研究の実際（量的研究）（９） 第12回　臨床心理学研究の実際（実験研究）（１０） 第13回　臨床心理学研究の実際（調査研究）（１１） 第14回　臨床心理学研究の実際（効果研究）（１２） 第15回　臨床心理学研究の実際（質的研究）（１３）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学のもならず、家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文などによる学習や発表の準備（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：2時間）
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ
評価基準と評価方法	発表（60%）、質疑応答（20%）、討論（20%） 発表：自ら選んだテーマについて文献を調べ、発表した内容の適切性の評価。また、研究計画を立て、仮説の検証のために適した内容になっているかについての評価。到達目標１、２、３の達成度の確認。
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。
教科書	なし
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP532B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	修士論文研究テーマの決定
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを決定する。
到達目標	(1)関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。【知識・理解】 (2)他者の発表を聞いて、適切なコメントをすることができる。【知識・理解】 (3)必要な研究倫理について、説明することができる。【研究倫理】 (4)修士論文研究のテーマを決定し、研究計画を作成できる。【知識・理解】
授業計画	#01：関心のある領域についての文献レビューと討論(1)　報告者１による報告と討論１ #02：関心のある領域についての文献レビューと討論(2)　報告者２による報告と討論１ #03：関心のある領域についての文献レビューと討論(3)　報告者１による報告と討論２ #04：関心のある領域についての文献レビューと討論(4)　報告者２による報告と討論２ #05：関心のある領域についての文献レビューと討論(5)　報告者１による報告と討論３ #06：関心のある領域についての文献レビューと討論(6)　報告者２による報告と討論３ #07：関心のある領域についての文献レビューと討論(7)　報告者１による報告と討論４ #08：関心のある領域についての文献レビューと討論(8)　報告者２による報告と討論４ #09：関心のある領域についての文献レビューと討論(9)　報告者１による報告と討論５ #10：関心のある領域についての文献レビューと討論(10)　報告者２による報告と討論５ #11：関心のある領域についての文献レビューと討論(11)　報告者１による研究計画の立案 #12：関心のある領域についての文献レビューと討論(12)　報告者２による研究計画の立案 #13：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(1)　報告者１による報告 #14：修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(2)　報告者２による報告 #15：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめる。 授業後学習（2時間以上）：授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおく。
授業方法	演習形式。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。
評価基準と評価方法	発表（30%）：発表資料ならびに発表の仕方について評価する。【到達目標(1)、(3)の到達度確認】 討論への参加（30%）：他者の発表に対するコメントの内容について評価する。【到達目標②、③の到達度確認】 修士論文計画の作成（40%）：修士論文研究の研究計画について評価する。【到達目標③、④の到達度確認】
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が２名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進度によって、授業計画の内容は変化する。 なお、担当者は対人関係精神分析／関係精神分析的なオリエンテーションで心理臨床活動を行っていることを理解しておくこと。
教科書	なし。
参考書	指導の過程において、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特論						
担当教員	前期：大和田　後期：坂本					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5010
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	4.0

授業のテーマ	心理臨床の現場に立つ者として是非とも理解しておきたい心の問題、心理支援の方法、またその際に必要となる倫理やマナーについて教授する。
授業の概要	心理臨床の専門家として門出する院生が、幅広い臨床心理学の分野について一定の知識・素養を身に着けることが大きな目的である。前期は、臨床心理学的な諸問題をとりあげ、問題となる行動や症状を効果的にアセスメントし、支援に結びつけるための基礎的方法を中心に講義を展開する。また、後期では、主要な心理療法について、その理論や技法を中心に講義を展開する。さらに、こうした講義を通して、心理臨床家に必要な倫理事項やマナーについても適宜教授する。
到達目標	（１）臨床心理学的諸問題の具体的内容について説明できる。【知識・理解】 （２）臨床心理学的支援・心理療法の具体的内容について説明できる。【汎用的技能】 （３）心理臨床家として必要な倫理事項やマナーについて説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　前半の授業のすすめ方について（ガイダンス） 第 2回　様々な症状論 第 3回　臨床心理学的援助の考え方 第 4回　発達障害 第 5回　統合失調症 第 6回　気分障害（大うつ病性障害） 第 7回　気分障害（双極性障害） 第 8回　不安障害 第 9回　強迫性障害 第10回　トラウマ関連障害 第11回　解離性障害 第12回　摂食障害 第13回　認知症 第14回　パーソナリティ障害 第15回　がん患者と家族の心理的問題 第16回　後半の授業のすすめ方について（ガイダンス） 第17回　精神分析的心理療法の実際 第18回　行動療法の実際 第19回　来談者中心療法の実際 第20回　認知行動療法の実際 第21回　家族療法の実際 第22回　その他の心理療法の実際 第23回　心理療法の倫理について事例から学ぶ（１）守秘義務など 第24回　精神分析的心理療法の事例に学ぶ 第25回　行動療法の事例に学ぶ 第26回　来談者中心療法の事例に学ぶ 第27回　認知行動療法の事例に学ぶ 第28回　家族療法の事例に学ぶ 第29回　その他の心理療法について事例から学ぶ 第30回　心理療法の倫理について事例から学ぶ（２）多重関係など
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について臨床心理学や精神医学の関連書にて予習（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：2時間）
授業方法	受講者による発表およびディスカッションを中心としながら適宜解説を行う
評価基準と評価方法	発表内容50%、ディスカッションの姿勢や質疑応答など講義への関与度50% 発表内容：与えられたテーマについて十分に理解し、心理援助を実践するための知識について説明できることの確認。到達目標の（１）（２）に関する到達度の確認。 講義への関与度：心理臨床家としての動機付けや積極性が十分にあることについての確認。到達目標の（３）に関する到達度の確認。
履修上の注意	1/3以上の欠席者には単位を与えない

教科書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。
参考書	講義の中で紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理基礎実習						
担当教員	大和田攝子・中村博文・木場律志					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5020
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	金曜5～6	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理臨床的援助における基本的技能の習得
授業の概要	心理臨床的援助の基本的技能を身につけることを目的とする。 授業には、次のような内容が含まれる。 ・基礎講義の受講（前期） ・ロール・プレイの実施と検討（前期） ・神戸松蔭こころのケア・センターでの相談実務実習（2021年6月～2022年2月） ・神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席実習（2021年10月～2022年3月） ・学外スーパーバイザーとのスーパービジョン実習（ケース担当後～） ・ケース・カンファレンスへの参加（通年）
到達目標	(1)心理臨床的援助の対象者と適切な関わりを可能とするために必要となる最も基本的な知識、技術、ならびに態度について、説明することができる。（前期）【知識・理解】【態度・志向性】 (2)前期で学んだことをもとに、指導を受けながら対象者と関われるようになる。（後期）【汎用的技能】
授業計画	前期（6月以降は，相談実務実習が開始される） #01：オリエンテーション－基礎実習で何を学ぶか、ケア・センターの利用の仕方 #02：基礎講義(1)　クライエントとの接し方のポイント #03：基礎講義(2)　家族との接し方のポイント、紹介先や他機関との連携・協働 #04：基礎講義(3)　心理療法の構造づくりのポイント #05：基礎講義(4)　インテーク面接のポイント #06：基礎講義(5)　心理査定実施のポイント #07：基礎講義(6)　プレイセラピーのポイント #08：学外実習事前指導 #09：ケア・センター相談実務実習を始めるにあたって #10：ロール・プレイ(1)　クライエントとの接し方 #11：ロール・プレイ(2)　家族との接し方、紹介先や他機関との連携・協働 #12：ロール・プレイ(3)　心理療法の構造づくり #13：ロール・プレイ(4)　インテーク面 #14：ロール・プレイ(5)　心理査定 #15：ロール・プレイ(6)　プレイセラピー 後期 #16：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(1)　報告者A、他 #17：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(2)　報告者B、他 #18：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(3)　報告者C、他 #19：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(4)　報告者D、他 #20：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(5)　報告者E、他 #21：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(6)　報告者F、他 #22：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(7)　報告者G、他 #23：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(8)　報告者H、他 #24：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(9)　報告者I、他 #25：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(10)　報告者J、他 #26：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(11)　報告者K、他 #27：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(12)　報告者L、他 #28：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(13)　報告者M、他 #29：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(14)　報告者N、他 #30：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(15)　報告者O、他
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：基礎講義に先立って教科書の該当箇所を読んでおく。また、神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席ケースに関連する文献を検索し、読んでおく。（学習時間：2時間） 授業後学習：神戸松蔭こころのケア・センターにおける担当ケースについて、スーパーバイザーにより指示される形式で資料を作成する。（学習時間：2時間） その他：神戸松蔭こころのケア・センターにおける担当ケースについて、カンファレンスでの報告資料を作成する。
授業方法	講義、演習、実習。
評価基準と評価方法	実習への参加態度（40%）、各種報告書や作成資料（30%）、カンファレンスでの報告や発言（30%）により評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。

履修上の注意	スーパービジョン実習にかかる費用については、「臨床心理実習Ⅱ」と合わせて50,000円までは大学が負担する。それ以上の費用は自己負担となる。
教科書	鑪 幹八郎・名島潤慈（編著）　2018　心理臨床家の手引き　第4版　誠信書房　ISBN978-4-414-41643-5
参考書	授業の進行に伴って紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習I（心理的アセスメントに関する理論と実践）						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5030
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理査定（心理的アセスメント）に関する理論と実践
授業の概要	臨床心理査定（心理的アセスメント）、特に検査法について、代表的な臨床心理検査の基本的知識と実践力を習得します。 互いに被検査者・検査者・記録者となり代表的な臨床心理検査を施行し、そのデータを用いて、採点方法、解釈の仕方、所見の書き方などを学びます。
到達目標	①公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解し、説明できる。【知識・理解】 ②心理的アセスメントに関する理論と方法を理解し、説明できる。【知識・理解】 ③心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用ができる。【汎用的技能】 ④代表的な臨床心理検査(特にロールシャッハ・テスト)について、施行・採点・解釈を行い、所見を作成することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回　オリエンテーション　授業の進め方 第 2回　臨床心理査定（心理的アセスメント）の定義 第 3回　臨床心理査定（心理的アセスメント）の倫理 第 4回　臨床心理査定（心理的アセスメント）の方法(1)　面接法 第 5回　臨床心理査定（心理的アセスメント）の方法(2)　検査法 第 6回　代表的な臨床心理検査(1)　知能・発達検査 第 7回　代表的な臨床心理検査(2)　パーソナリティ検査 第 8回　ロールシャッハ・テスト(1)　概要 第 9回　ロールシャッハ・テスト(2)　施行法 第10回　ロールシャッハ・テスト(3)　採点法 第11回　ロールシャッハ・テスト(4)　結果の整理法 第12回　ロールシャッハ・テスト(5)　解釈法 第13回　ロールシャッハ・テスト(6)　所見の書き方 第14回　ロールシャッハ・テスト(7)　フィードバック 第15回　臨床心理査定（心理的アセスメント）の効用と限界
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、臨床心理検査の施行、採点と結果の整理、所見作成。＜２時間＞ 授業後学習：提出物の加筆修正。＜２時間＞
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション）。
評価基準と評価方法	平常点（50%）、提出物（50%）により評価をおこなう。 平常点：授業への参加・貢献。到達目標①および②に関する到達度の確認。 提出物：到達目標③および④に関する到達度の確認。
履修上の注意	授業で取り上げない臨床心理検査についても、積極的に学んでください。
教科書	なし。
参考書	片口安史著 1987 新・心理診断法－ロールシャッハ・テストの解説と研究 金子書房 ISBN10:4760825487 藤岡新治・松岡正明・片口安史著 1993 ロールシャッハ・テストの学習―片口法スコアリング入門 金子書房 ISBN10:4760840087 その他適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習II						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5040
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理アセスメントの実際
授業の概要	投映法検査、質問紙検査、知能検査、発達検査などの各種心理検査について、実際の臨床現場での検査実施や臨床事例の検討などを通じて、その臨床的応用の方法について検討する。 また、検査の応用を含む、臨床心理査定について学習する。
到達目標	(1)臨床心理アセスメントについて説明できる。【知識・理解】 (2)必要に応じた適切なテストバッテリーを組み、実施することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 (3)テスト結果を分析、解釈し、所見を作成できる。【汎用的技能】
授業計画	#01：テスト・バッテリー #02：臨床事例検討(1) #03：心理臨床実践における質問紙検査の利用 #04：臨床事例検討(2)　報告者Ａによる事例報告と検討 #05：臨床事例検討(3)　報告者Ｂによる事例報告と検討 #06：心理臨床実践における知能検査の利用 #07：臨床事例検討(4)　報告者Ｃによる事例報告と検討 #08：臨床事例検討(5)　報告者Ｄによる事例報告と検討 #09：心理臨床実践における発達検査の利用 #10：臨床事例検討(6)　報告者Ｅによる事例報告と検討 #11：臨床事例検討(7)　報告者Ｆによる事例報告と検討 #12：心理臨床実践における投映法検査の利用 #13：臨床事例検討(8)　報告者Ｇによる事例報告と検討 #14：臨床事例検討(9)　報告者Ｈによる事例報告と検討 #15：まとめ、レポート提出
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：心理臨床で用いられる心理検査について、その理論や実施方法を学習しておく。 また、協力機関（心療内科クリニック、神戸松蔭こころのケア・センター）で心理検査を実施した場合には、結果をまとめ、授業内で報告できるよう準備しておく。 授業後学習（2時間以上）：授業で検討した各種検査について、あるいは報告書の書き方について、文献による学 習を深める。
授業方法	演習形式。 授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）や、検査データのまとめ、検査所見等の提出を求める場合がある。
評価基準と評価方法	授業内での課題（50%）：小レポート、検査データのまとめ、検査所見等の課題を課す。【到達目標(1)～(3)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、課題によって異なる】 検査レポートの作成と報告（50%）：実習機関で心理テストを実施し、検査結果を分析し、検査レポートを作成し、報告を行う。【到達目標(2)、(3)の到達度確認】
履修上の注意	臨床心理検査の検討が中心となる授業なので、欠席は原則として認めない。
教科書	なし。
参考書	必要に応じて、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）						
担当教員	坂本・小松・黒崎・榊原					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6010
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	土曜1～5	配当学年	2	単位数	6.0

授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援の実践。
授業の概要	学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター）ならびに学外施設において、実習施設の実習指導者や担当教員の巡回による指導を受けながら、臨床心理学的な支援の実践について学ぶ。
到達目標	①心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能を身につける。【知識・理解】【汎用的技能】 （１）コミュニケーション、（２）心理検査、（３）心理面接、（４）地域支援 ②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成をすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 ④他職種連携及び地域連携ができる。【汎用的技能】【態度・志向性】 ⑤公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解をもてる。【知識・理解】【態度・志向性】
授業計画	・前期 #01：学内施設ならびに学外施設における実習（1） #02：学内施設ならびに学外施設における実習（2） #03：学内施設ならびに学外施設における実習（3） #04：学内施設ならびに学外施設における実習（4） #05：学内施設ならびに学外施設における実習（5） #06：学内施設ならびに学外施設における実習（6） #07：学内施設ならびに学外施設における実習（7） #08：学内施設ならびに学外施設における実習（8） #09：学内施設ならびに学外施設における実習（9） #10：学内施設ならびに学外施設における実習（10） #11：学内施設ならびに学外施設における実習（11） #12：学内施設ならびに学外施設における実習（12） #13：学内施設ならびに学外施設における実習（13） #14：学内施設ならびに学外施設における実習（14） #15：学内施設ならびに学外施設における実習（15） ・後期 #16：学内施設ならびに学外施設における実習（16） #17：学内施設ならびに学外施設における実習（17） #18：学内施設ならびに学外施設における実習（18） #19：学内施設ならびに学外施設における実習（19） #20：学内施設ならびに学外施設における実習（20） #21：学内施設ならびに学外施設における実習（21） #22：学内施設ならびに学外施設における実習（22） #23：学内施設ならびに学外施設における実習（23） #24：学内施設ならびに学外施設における実習（24） #25：学内施設ならびに学外施設における実習（25） #26：学内施設ならびに学外施設における実習（26） #27：学内施設ならびに学外施設における実習（27） #28：学内施設ならびに学外施設における実習（28） #29：学内施設ならびに学外施設における実習（29） #30：学内施設ならびに学外施設における実習（30）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：支援の対象者や支援の内容に関して文献等で学習する。（1時間） 授業後学習：毎回の実習の後に実習記録（実習ノート）を作成する。（1時間）
授業方法	講義、演習（グループワーク、プレゼンテーション）、実習・フィールドワーク、実技。
評価基準と評価方法	実習への参加態度（実習指導者のコメント、巡回指導時や事前事後指導時の様子）（50%）：到達目標①③④ ⑤に関する到達度の確認。 各種報告書や作成資料（実習記録、実習報告書等）（50%）：到達目標①②⑤に関する到達度の確認。

履修上の注意	実習を行う施設はいずれも実際の業務を行っている施設であり、そこで実際の支援が行われていることに留意すること。 学外施設への交通費については、自己負担となる。
教科書	なし。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理実習II						
担当教員	坂本・小松・黒崎・榊原					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP6020
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理臨床的援助における応用的技能の習得。
授業の概要	学内実習施設（神戸松蔭こころのケア・センター）において、相談実務実習（2020年6月まで）、および陪席 実習を行う。 学外スーパーヴァイザーとのスーパーヴィジョン実習を行う。 ケース・カンファレンスに参加し、事例報告および討論を行う。 担当事例について、事例論文を執筆する。
到達目標	①心理臨床的援助の対象者との関わりやスーパーヴィジョン等の指導を通して学んだ内容について、専門的な観点に基づきまとめ、口頭および論文の様式で報告することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②討議を通じて、互いの理解を深めることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
授業計画	第 1回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (1) 第 2回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (2) 第 3回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (3) 第 4回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (4) 第 5回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (5) 第 6回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (6) 第 7回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (7) 第 8回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (8) 第 9回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (9) 第10回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (10) 第11回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (11) 第12回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (12) 第13回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (13) 第14回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (14) 第15回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (15) 第16回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (16) 第17回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (17) 第18回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (18) 第19回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (19) 第20回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (20) 第21回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (21) 第22回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (22) 第23回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (23) 第24回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (24) 第25回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (25) 第26回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (26) 第27回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (27) 第28回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (28) 第29回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (29) 第30回　相談実務実習、陪席実習、スーパーヴィジョン実習とその検討 (30)
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：臨床心理学関連の事例研究やその他の研究論文、専門書などを読み、さまざまな事例への対応および専門機関における実践について学ぶ。（1時間） 授業後学習：スーパーヴァイザーの指示にしたがい、スーパーヴィジョンを受けるための資料を作成する。（ 1 時間） その他：ケース・カンファレンスにおける担当ケースの報告資料を作成する。担当ケースに関する事例論文を作 成する。
授業方法	演習、実習（ディスカッション、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク）。
評価基準と評価方法	実習への参加態度（40%）：到達目標(1)に関する到達度の確認。 各種報告書や作成資料（30%）：到達目標(1)に関する到達度の確認。 カンファレンスでの報告や発言（30%）：到達目標(2)に関する到達度の確認。
履修上の注意	スーパーヴィジョン実習にかかる費用については、「臨床心理基礎実習」と合わせて50,000円までは大学が負担し、それ以上の費用は自己負担となる。

教科書	なし。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5050
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理臨床面接における基礎的技法の習得。
授業の概要	さまざまな心理臨床理論とその方法について学ぶとともに、臨床心理面接を行うための基本的態度および基礎的技法を、応答訓練、ロールプレイ、試行カウンセリングなどを通じて、体験的に学習する。
到達目標	(1)力動論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 (2)行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 (3)その他の心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 (4)心理に関する相談、助言、指導等への上記①から③での応用について考えることができる。【汎用的技能】 (5)心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整を考えることができる。【態度・志向性】 (6)試行カウンセリングを実施し、記録としてまとめ、報告することができる。【汎用的技能】
授業計画	#01：オリエンテーション／心理臨床家としての基本的態度 #02：心理支援に関する理論と方法－さまざまな考え方と方法 #03：応答訓練(1)－応答技法 #04：応答訓練(2)－紙上応答／試行カウンセリングの準備 #05：応答訓練(3)－聴取応答#06：応答訓練(4)－ロールプレイ #07：試行カウンセリングの検討(1)　報告者Ａの試行カウンセリング事例検討 #08：試行カウンセリングの検討(2)　報告者Ｂの試行カウンセリング事例検討 #09：試行カウンセリングの検討(3)　報告者Ｃの試行カウンセリング事例検討 #10：試行カウンセリングの検討(4)　報告者Ｄの試行カウンセリング事例検討 #11：試行カウンセリングの検討(5)　報告者Ｅの試行カウンセリング事例検討 #12：試行カウンセリングの検討(6)　報告者Ｆの試行カウンセリング事例検討 #13：試行カウンセリングの検討(7)　報告者Ｇの試行カウンセリング事例検討 #14：試行カウンセリングの検討(8)　報告者Ｈの試行カウンセリング事例検討 #15：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前準備学習（2時間以上）：教科書の該当部分を読んでおく。 授業後学習（2時間以上）：授業で学んだことの要点を振り返り、整理しておく。また、応答訓練、試行カウンセ リング実施後は、逐語録の作成等必要な作業を行う。
授業方法	講義。ただし、演習実習的な内容を含む。 受講者は、試行カウンセリングを行い、授業内で発表を行わなければならない。また、その発表に基づいて、討論を行う。ただし、様々な事情によりクライエント役を確保できない場合には、ロールプレイをもってそれに代えることを許可する場合もある。
評価基準と評価方法	授業内での課題（30%）：心理支援に関する資料の作成や、応答技法の練習などの課題を課す。【到達目標(1)～(5) のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる】 小レポート（30%）：授業において、小レポート（授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）の提出を求める。【到達目標(1)～(4)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる】 試行カウンセリングの実施と報告（40%）：試行カウンセリングを実施し、逐語録とまとめ記録を作成し、報告を行う。【到達目標⑥の到達度確認】
履修上の注意	応答訓練、および試行カウンセリングの検討が中心となる授業なので、欠席は原則として認めない。 授業計画は、受講者が8名の場合を想定している。したがって、受講者数によって授業計画の内容ならびに回数が変化することがある。
教科書	鑪 幹八郎　1977　試行カウンセリング　誠信書房　ISBN:978-4414401295
参考書	Ivey, A.E. 福原真知子・椙山喜代子・國分久子・楡木満生（訳編）　1985　マイクロカウンセリング　“学ぶ－使う－教える”技法の統合：その理論と実際　川島書店　ISBN:978-4761003296 土居健郎　1992　新訂・方法としての面接－臨床家のために　医学書院　ISBN:978-4-260-11769-2 小松貴弘・渡辺亘・中村博文　2019　時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門　創元社　ISBN：978-4422117218

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論II						
担当教員	榊原　久直					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5060
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理臨床面接におけるクライエントやセラピストの動きを理解する基礎的な視点の習得
授業の概要	臨床心理面接の中で生じるクライエントやセラピストの言語的・非言語的，および情動的なコミュニケーションの動きを理解するという視点を，文献を用いたワーク，ペアでのロールプレイを用いたビデオ分析を通じて体験的に学習する。
到達目標	1.各種心理療法の共通する心理臨床面接における３つのコミュニケーションの特徴を説明できる。【知識・理解】 2.ロールプレイのビデオ分析を行い，心理に関する相談，助言，指導等に関する見立てと方針を計画することができる。【汎用的技能】 3.ロールプレイのビデオ分析を行い，心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について，見立てと方針に反映することができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回：オリエンテーション　心理臨床家が行う援助とは 第2回：面接過程を学ぶ①　～アセスメント面接から治療同盟の構築～ 第3回：面接過程を学ぶ②　～転移と逆転移の理解～ 第4回：面接過程を学ぶ③　～抵抗をめぐって～ 第5回：面接過程を学ぶ④　～徹底操作と終結～ 第6回：面接内の言語的コミュニケーションの理解①　～テリーの症例：前期より～ 第7回：面接内の言語的コミュニケーションの理解②　～テリーの症例：中期より～ 第8回：面接内の言語的コミュニケーションの理解③　～テリーの症例：後期より～ 第9回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ①　～ペア１の検討～ 第10回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ②　～ペア２の検討～ 第11回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ③　～ペア３の検討～ 第12回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ④　～ペア４の検討～ 第13回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ⑤　～ペア５の検討～ 第14回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ⑥　～ペア６の検討～ 第15回：まとめとふりかえり
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に提供する配布資料すべてに目を通す。加えて担当回にはそれらの資料の要約や補足情報を収集し資料の作成を行う。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ，授業や発表の振り返りを行うとともに，授業内で紹介された追加の文献や資料に目を通す。（学習時間：2時間） これら事前事後学習に加えて，ロールプレイを実施するとともに，ビデオ分析の逐語起こし作業を行う。
授業方法	講義，実習，演習の形式を織り交ぜて行う。 受講者はペアに分かれてロールプレイ形式でのセラピーのアセスメント体験実習を行うとともに，そのビデオ記録を分析し，授業内でプレゼンテーションしなければならない。またその発表に基づいて，ディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標1，2，3の達成度確認 ロールプレイのビデオ分析の発表（30%）：到達目標2，3の達成度確認 期末レポート（40%）：到達目標1，2，3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内での発表やディスカッション，感想・質問シートの記入を元に算定する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに，評価を伝え，改善点を提示する。
履修上の注意	授業計画は履修生の人数に応じて適宜スケジュールを変更して実施する。
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する。
参考書	丸田俊彦（1986）サイコセラピー練習帳――グレーテルの宝探し．岩崎学術出版社． ISBN：978-4753386048 丸田俊彦（1988）サイコセラピー練習帳Ⅱ――Dr.Mへの手紙．岩崎学術出版社．

－　　－　　－

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床薬理学特論						
担当教員	若栄　徳彦					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	MP5230
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理臨床家が知っておくべき向精神薬の作用
授業の概要	臨床薬理学の総論を学んだ後、各種向精神薬について各種の特徴（プロフィール、作用、副作用）などについて学習する。また、薬物心理学も考慮に入れて総論と各論を学んでいく。
到達目標	1. クライエントに薬の説明ができる（知識・理解） 2. 薬理学に関するレポートが作成できる（汎用的技能） 3. 他の人と討議できる（態度・志向性）
授業計画	第１回　総論（1）薬理学とは 第２回　総論（2）薬の作用様式 第３回　総論（3）作用機序 第４回　総論（4）生体内動態 第５回　総論（5）創薬 第６回　抗精神病薬（定型） 第７回　抗精神病薬（非定型） 第８回　抗うつ薬（三環系・四環系） 第９回　抗うつ薬（SSRI,SNRI,NaSSA） 第10回　気分安定薬 第11回　抗不安薬（ベンゾジアゼピン系） 第12回　抗不安薬（非ベンゾジアゼピン系） 第13回　睡眠薬 第14回　抗認知症薬 第15回　抗てんかん薬 （一部変更して精神医学の一部を口述することもある。また、公認心理師は医学全般を出題するため、他の領域を口述することもある。）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う所についてはネット検索して予習する。薬理学の進歩は早いため参考書よりネットが有用。http://www.okusurinavi.comあたりを参照。（２時間） 授業後学習：授業内容を病院実習等で活用する（２時間）
授業方法	講義形式で行う。
評価基準と評価方法	レポート80%。（締め切り厳守）：レポートのまとめ方等について評価する。 到達目標1.から3.に関する到達度の確認 授業への取り組み20%：授業中のの答え方等で評価する。 到達目標1.から3.に関する到達度の確認
履修上の注意	15分以上の遅刻は欠席扱いとするが、やむを得ない事情の場合は前以て連絡すること。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。
教科書	プリントを配布する
参考書	授業中紹介はするが、ネット検索のほうが有用である。